様式1

大学等名	大阪商業大学
プログラム名	AI・データサイエンス教育プログラム（基礎）

プログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件　　学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 対象となる学部・学科名称

③ 修了要件

●必修科目（2科目、4単位）
・情報処理概論
・情報社会と倫理
●選択必修科目（以下の2科目から1科目を選択、2単位）
・データリテラシー
・社会調査法

必要最低科目数・単位数　3 科目　6 単位　履修必須の有無　令和9年度以降に履修必須とする計画、又は未定

④ 現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
情報処理概論	2	○	○	○					

⑤「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
情報処理概論	2	○	○	○					

⑥「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
情報処理概論	2	○	○	○					

⑦「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
情報社会と倫理	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データリテラシー	2		○	○	○						
社会調査法	2		○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	●第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会……「情報処理概論」(8回目) ●データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方……「情報処理概論」(9回目)
	1-6	●AI最新技術の活用例（深層生成モデル、敵対的生成ネットワーク、強化学習、転移学習など）……「情報処理概論」(12回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	●調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど……「情報処理概論」(9回目)
	1-3	●データAI活用領域の広がり……「情報処理概論」(10回目)
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	●データ解析……「情報処理概論」(11回目) ●データ可視化……「情報処理概論」(11回目)
	1-5	●データAI利活用事例紹介……「情報処理概論」(12回目)

(4)活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	●ELSI (Ethical, Legal and Social Issues) ……「情報社会と倫理」(2～5回目) ●個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト…「情報社会と倫理」(6～8回目) ●データ倫理：データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護……「情報社会と倫理」(13回目) ●AIサービスの責任論……「情報社会と倫理」(9～11回目) ●データAI活用における負の事例紹介……「情報社会と倫理」(9、10回目)
	3-2	●情報セキュリティ：機密性、完全性、可用性……「情報社会と倫理」(12回目) ●情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介……「情報社会と倫理」(14回目)
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	●データの分布(ヒストグラム)と代表値（平均値、中央値、最頻値）……「データリテラシー」(7回目)、「社会調査法」(2、4回目) ●代表値の性質の違い（実社会では平均値＝最頻値でないことが多い）…「データリテラシー」(7回目) ●データのばらつき（分散、標準偏差、偏差値）……「データリテラシー」(7回目)、「社会調査法」(3、5回目) ●観測データに含まれる誤差の扱い……「データリテラシー」(7回目)、「社会調査法」(10回目) ●相関と因果（相関係数、擬似相関、交絡）……「データリテラシー」(9回目)、「社会調査法」(6、13回目) ●母集団と標本抽出（国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出）…「社会調査法」(9回目) ●クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列……「社会調査法」(7回目) ●統計情報の正しい理解（誇張表現に惑わされない）……「社会調査法」(11、12回目)
	2-2	●データ表現（棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ）……「データリテラシー」(6回目)、「社会調査法」(8回目) ●データの図表表現（チャート化）……「社会調査法」(8回目) ●優れた可視化事例の紹介（可視化することによって新たな気づきがあった事例など）……「社会調査法」(14回目)
	2-3	●データの集計（和、平均）……「データリテラシー」(2、3回目)、「社会調査法」(2回目) ●データの並び替え、ランキング……「データリテラシー」(2、3回目)、「社会調査法」(7回目) ●データ解析ツール（スプレッドシート）…「データリテラシー」(2、3回目) ●表形式のデータ（csv）……「データリテラシー」(2、3回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

このプログラムでは、Society5.0時代の社会で活躍するための基礎素養であるAI・データサイエンスの基礎を学び、それらを業務に効果的に利活用できる能力を身に付けることができます。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容　※該当がある場合に記載

※本項目は各大学の実践例を参考に伺うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容
情報処理概論の「第10回 データ・AIの活用領域」に関する授業の中で生成AIについて解説し、文章作成と画像作成を実演した。 情報処理概論の「第13回 データ・AI利活用の最新動向」に関する授業の中でChatGPTとBing AIを用いた文章作成の演習を実施した。

様式２

大阪商業大学

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度　令和5　年度

②大学等全体の男女別学生数　男性 4185 人　女性 877 人　（ 合計 5062 人 ）

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
経済学部	1,397	300	1,200	143	2											143	12%
総合経営学部	2,604	550	2,200	270	11											270	12%
公共学部	1,061	250	1,000	108	2											108	11%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合　計	5,062	1,100	4,400	521	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	521	12%

様式3

大学等名 大阪商業大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数　（常勤） 103 人（非常勤） 111 人

② プログラムの授業を教えている教員数 7 人

③ プログラムの運営責任者

（責任者名）樽磨 和幸　（役職名）情報教育委員会　委員長

④ プログラムを改善・進化させるための体制（委員会・組織等）

情報教育委員会

（責任者名）樽磨 和幸　（役職名）情報教育委員会　委員長

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

大阪商業大学情報教育委員会規程

⑥ 体制の目的

委員会は、情報処理教育及び数理・データサイエンス・AI教育の円滑な運営を図ることを目的とし、次の事項について審議、実施する。
(1) 情報処理教育に関する事項
(2) 大阪商業大学AI・データサイエンス教育プログラムの運営、改善・進化、自己点検・評価に関する事項
(3) 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度の申請に関する事項
(4) 教育・研究用情報システム（機器、ネットワーク及びソフトウェア）の整備、管理に関する事項
(5) 教育・研究における情報システム利用の支援に関する事項
(6) 前5号にかかわる事業計画に関する事項
(7) その他本学における情報処理教育及び数理・データサイエンス・AI教育の目的を達成するために必要な事項

⑦ 具体的な構成員

委員長	樽磨　和幸	総合経営学部経営学科	教授
副委員長	佐藤　　仁	総合経営学部経営学科	准教授
委　員	石黒　亜維	総合経営学部商学科	専任講師
委　員	宇治　典貞	総合経営学部経営学科	専任講師
委　員	梶浦　大起	総合経営学部経営学科	助教
委　員	北室　康一	総合経営学部商学科	准教授
委　員	小林　俊和	公共学部公共学科	専任講師
委　員	佐藤　敦子	総合経営学部経営学科	助教
委　員	塩塚　武康	総合経営学部経営学科	准教授
委　員	高橋　美貴	総合経営学部経営学科	教授
委　員	中谷　陽仁	総合経営学部経営学科	助教
委　員	吹原　顕子	総合経営学部商学科	准教授
委　員	松田　昌人	総合経営学部経営学科	准教授
委　員	矢野　芳人	総合経営学部経営学科	助教
委　員	奥田　一嗣	事務局　庶務課	課長
委　員	大林　進一	事務局　学生支援課	課長
委　員	田畑麻貴子	事務局　教務課	課長

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和5年度実績	12%	令和6年度予定	28%	令和7年度予定	46%
令和8年度予定	66%	令和9年度予定	70%	収容定員（名）	4,400

具体的な計画

目標を実現するために、以下の取り組みを継続して実施する計画である。
1)本教育プログラムの周知の強化・継続…　本教育プログラムの意義、修了の利点、及びカリキュラム体系等の周知を強化し、毎年度継続して実施する(項目⑩参照)。
2)学生の学習サポートの利用推奨…　サポート学習やオフィスアワーによる学生サポートを周知し積極的な利用を推奨する(項目⑫参照)。また、学内の情報教育環境の積極的な活用を推奨する(項目⑪参照)。
3)本教育プログラム対象科目の時間割配置の改善…　教育プログラムの時間割配置を見直し、改善策を実施する(項目⑨参照)。
4)評価・改善の継続…　情報教育委員会、データサイエンス教育推進部会が中心となり、内部評価（学生へのアンケート調査、担当教員による振り返りシート作成）、外部評価（外部企業人、他大学教員）の結果を分析し、改善策を検討する。
5)教育の質向上の取り組み…　評価結果を関係者間で共有し、授業内容、授業運営の改善、履修率の向上につなげる。
また、令和６～８年度の取組みを総括して得られる知見に基づく改善点を令和９年度以降に反映する。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

1)本教育プログラムは、全学部・学科の学生が正課授業（卒業要件科目）として履修できる「副専攻科目」で構成されている。
2)時間割の工夫
本教育プログラム対象科目の時間割配置とクラス数には以下の工夫を施している。
2-1)本教育プログラム対象科目を可能な限り時間割上重複しない曜日時限に配置している。
2-2)実習系科目（データリテラシー）は、教育効果を高めるために定員50名の人数制限を設け、履修希望者全員が履修可能となるよう複数科目(2023年度は5クラス)開講している。履修希望者の増加が見込まれる場合にはクラス数を増強する体制をとっている。
2-3)講義科目についても教育効果を考慮し、最大収容定員を 400名に制限している。2023年度に履修希望者が最大収容定員を超えた科目（社会調査法）は、2024年度のクラス数を1クラスから2クラスに増強している。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

以下のような周知の取り組みを実施している。
1)『履修の手引き』による周知
2)周知用チラシ及びポスターを作成し、新入生オリエンテーション、履修相談会等で配布するとともに学内掲示板に掲示している。
3)大学ホームページ、ポータルサイト及び授業支援システム等、オンライン上での周知を実施している。
4)本教育プログラム対象学生（2023年度以降の入学生）に対するアンケート調査を、必修科目であるゼミナール内で実施している。本アンケート調査自体が、学生への周知の機能を果たしている。
5)本教育プログラム対象科目の初回授業において、本教育プログラムの意義、修了することの利点、カリキュラム体系等について説明し、学生の履修意欲を高めるとともに修了要件科目の履修を促している。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

1)学内情報教育環境の活用
1-1)授業支援システム
授業資料が蓄積されており、学生の予復習に利用されている。また、オンラインの小テストや小レポートを授業内容の理解度確認、理解の定着に役立てている。
1-2)共用PC利用制度
ラーニングコモンズ他でノートPCの貸し出しを行っている。パソコンを設置したオープンルームを常設し、情報処理実習室は授業で使用していない時間帯は開放している。
1-3)学内全域Wi-Fi環境
学内全域でWi-Fiが利用でき、オンライン教材の利用等の自学自習に活用されている。
2)資格講座の活用
学生のキャリアアップ支援のために資格講座を運営し、本教育プログラムに関連した資格（情報処理試験等）取得に挑戦することを推奨している。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業時間内外で学習指導、サポートとして以下の取り組みを実施している。
1)サポート学習講座の運営
学生支援課（令和６年度以降は組織変更により教務課）が運営するサポート学習講座（「数学よろず相談」、「パソコン講座」他）を通じて、学生の個別の質問に対応し自主的な学習を促進している。本講座は、情報教育委員会委員が担当している。
2)オフィスアワーの設定
各教員はオフィスアワーの時間を設け、それを学生に周知し、来室した学生に対する授業内容等のフォローアップや教学関係の相談に対応している。
3)授業支援システムの活用
学生からの個別の質問や相談にオンラインで対応するために、授業支援システムの個別指導コレクション機能を利用している。このシステムを通じて、学生はいつでも自分のペースで学び、質問を投げかけることができる。
4)TAによる授業サポート
実習系授業（データリテラシー）においてはTA（またはSA）を配置し、学生の学習をサポートしている。

様式4

大学等名 大阪商業大学

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）

情報教育委員会

（責任者名）樽磨 和幸　（役職名）情報教育委員会　委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	教務課では、本教育プログラムの履修状況・単位修得状況・修了状況を把握している。また、全科目・全授業回で出席確認システムを使用して出席状況を確認しており、収集データを分析している。 本教育プログラム対象科目はいずれも1年次配当で、理論上、1年次末に本教育プログラムを修了することが可能である。しかし、1年次に自由に履修できる科目数には制限があるため、卒業までに修了できるよう履修計画を立てている学生も多いと推察される。情報教育委員会としては、在学中のさらなる学修の基礎となること、また、就職活動おける利用価値等、本教育プログラムの利点を周知し、できるだけ2年次末までに修了するよう推奨していきたい。
学修成果	データサイエンス教育推進部会と教務課が実施しているアンケート調査のうち「関心が持てる授業内容である」と「この授業を受講してAI・データサイエンスに興味を持つことができましたか」の項目を分析することによって、本教育プログラムの学修成果を評価することができる。 分析結果は授業担当者、関係課室及び関係委員会間で共有され、本教育プログラムの評価・改善に活用される。授業担当教員には、アンケート調査結果や自身の授業実施経験等に基づき、本教育プログラムの履修生にAI・データサイエンスにより興味を持ってもらえるよう、授業内容の工夫や授業運営方法の改善を要請していきたい。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	FD委員会が実施している授業アンケートのうち「授業の内容が理解できている」の項目を分析することで学生の授業内容に対する理解度が評価できる。 担当教員はアンケート調査結果、ならびに、科目別合格率（単位取得率）等の教務データに基づき、自らの授業を評価・点検している（担当教員による授業振り返りシートの作成・提出）。学生に対しては、授業内容を確実に理解するため、授業時間外の取り組みであるサポート学習講座（「数学よろず相談」、「パソコン講座」）や担当教員によるオフィスアワーをより積極的に活用するよう推奨していきたい。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	データサイエンス教育推進部会と教務課が実施実施しているアンケート調査のうち「この授業を後輩に勧めたいと思いますか」の項目により後輩学生や他の学生への推奨度について確認している。 本項目の回答には学生の授業内容に対する満足度が反映されていると考えられるので、この数値を高めるため、各教員には次年度の授業内容、授業運営方法を工夫するとともに、本教育プログラムの意義をより丁寧に説明することを求めたい。また、このアンケート結果を学生にフィードバックすることで、学生の本教育プログラム履修の動機づけに役立てたい。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	2023年度の本教育プログラムの履修者率は全1年生の41%であった。 全1年生を対象としたアンケート（あなたは本教育プログラムの存在を知っていましたか）で「はい」と回答した者は全回答者の約20%であった。また、対象科目受講生を対象としたアンケート（この授業が「AI・データサイエンス教育プログラム（基礎）」の対象科目であることを知っていますか）で「はい」と回答した者は全回答者の約67%であった。このことから、開始初年は、本教育プログラムの周知（特に、新入生が履修登録をする前段階での周知）が十分ではなかったと評価する。 本教育プログラムの周知に関する改善・実施を継続し、履修者率・修了者率の向上に努めたい。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	2023年度以降の入学生を対象としたプログラムであり、本教育プログラムを修了した卒業生は出ていない。したがって、現時点では、本教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価について点検・評価はできない。2027年度以降は、本教育プログラムを修了した卒業生が、企業等で働くようになる。その際には、キャリアサポート室及び、IR（Institutional Research）推進委員会ならびに就業力測定部会による卒業生の活躍状況の調査や企業等の評価に関する点検・評価を実施することを検討している。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	【企業人による評価】学生は、データサイエンス・AI教育に関する知識・技術を身に付けるだけではなく、それらをどのように活用するかを主体的に考えられるようにならなければいけない。他者とコミュニケーションをとれることが大前提ではあるが、一定レベルのデータサイエンス・AIに関する知識・スキルを身に付けた学生は仕事の現場においても重宝されるのではないか。 【他大学教員による評価】本教育プログラムは文部科学省の基準に準拠しており、科目数と内容のバランスが適切である。シラバスがよく練られており、実践的なカリキュラムが受講生からの良好な評価を得ているが。一方、プログラムの周知不足と受講者増加のための改善が必要である。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本教育プログラムは必修科目と選択科目を合わせて3科目の単位修得を修了要件としている。授業では、問題演習やグループワークなどをできるだけ取り入れた授業展開にかかる時間的余裕を確保し、学習量に余裕を持たせ、比較的緩やかなペースで反復しつつ内容をしっかりと学習・理解できる科目構成とした。このことで、確実に理解できたという充実感とともに、AI・データサイエンスを学ぶことの楽しさを実感することに繋げ、より発展的な学習に挑戦する動機づけを与えることができたと考えている。しかしながら、プログラムを意図せず履修している学生も多く見られるため、今後は、プログラムの意図的に履修する学生が増えるよう、周知に努めたい。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	授業の質を維持・向上しつつ、より分かりやすい授業とすることを目的として、 1）内部評価：学生アンケート、対象科目担当者による振り返り 2）外部評価：外部評価者（企業人、他大学教員）による意見聴取 を実施している。これらから得られた情報は、関係者間で共有され、教育プログラム全体の改善に役立てている。加えて、本学の情報系教員が実習系授業の授業改善のために定期的に開催しているミーティング（1996年度から継続）において、2023年度から本教育プログラム対象の実習系科目である「データリテラシー」に関する授業報告を議題に追加し、教員間での情報交換と協力体制を強化した。

2023年度
入学生用



履修の手引き

Study Guide

履修の手引きは、入学時のみ配付します。
卒業するまで使用しますので大切に保管してください。（再配付はしません。）

大阪商業大学
Osaka University of Commerce

■目　次

Ⅰ　大学での学修 …… 1
　1．学修を始めるにあたって …… 2
　2．単位制について …… 2
　3．履修登録とは …… 2
　4．履修登録を行うためのルール …… 5
　5．履修登録の方法 …… 7
　6．授業について …… 7
　7．出席登録・確認について …… 10
　8．試験について …… 12
　9．成績について …… 14
　10．卒業について …… 15
　11．免許・資格取得について …… 16
Ⅱ　教育課程 …… 17
　経済学部経済学科 …… 31
　総合経営学部経営学科 …… 41
　総合経営学部商学科 …… 51
　公共学部公共学科 …… 61
　OBP コース（大阪商業大学ビジネス・パイオニアコース） …… 71
　GET コース（グローバル・アントレプレナー・トレーニングコース） …… 85
Ⅲ　自分成長プログラム～就業力育成支援～ …… 99
Ⅳ　教職課程 …… 103
Ⅴ　資格等取得 …… 107
Ⅵ　大学院 …… 113
Ⅶ　Q & A …… 119
Ⅷ　WEB 履修登録 …… 123
Ⅸ　学則および主な諸規程 …… 141

■ AI・データサイエンス教育プログラム（基礎）

本学には、AI・データサイエンスの基礎を学ぶ「AI・データサイエンス教育プログラム（基礎）」があります。このプログラムでは、Society5.0※時代の社会で活躍するための基礎素養である AI･データサイエンスの基礎を学び、それらを業務に効果的に利活用することができる能力を身につけることができます。

※「狩猟社会」「農耕社会」「工業社会」「情報社会」に続く、人類史上５番目の新しい社会

このプログラムを修了した学生には、修了証が発行されます。発行の手続きは「S-Navi！」でお知らせします。

●このコースでは以下の項目について学びます

①データ・AI 利活用に関する基礎知識

世の中のどのようなところでデータ・AI が利活用されているか、また、データ・AI を扱うための留意事項などを学びます。

②社会で活躍するために必要なデータリテラシー

データを適切に読み解き、加工し、伝えるための知識とスキルを学びます。

●対象科目（修得に必要な単位：６単位以上）

区　　分	授業科目名	配当年次	単位数	プログラムにおける必選
情報科目・情報基礎領域	情報処理概論	1	2	◎
	データリテラシー	1	2	△
ソフトパワー関係科目・人間関係性領域	情報社会と倫理	1	2	◎
	社会調査法	1	2	△

◎の科目はプログラムの必修科目です。プログラムを修了するためには、必ず修得してください。

△の科目はプログラムの選択必修科目です。プログラムを修了するためには、△から２単位以上を修得してください。

2023年度

授業科目名	情報処理概論		
担当者	宇治　典貞、梶浦　大起、正木　幸子、矢野　芳人		
開講時期	前期	単位	2

サブタイトル
社会における情報処理について学ぶ
科目の概要
情報技術の発展、通信技術の発展、そしてそれらの融合により社会は急速に変化しています。現在の社会では、情報を処理するためにコンピュータが使われています。そこで、授業の前半では、情報とは、情報システムとは、社会でどのような情報技術が使われているかを学びます。 しかし、スマートフォンやインターネット、街中のセンサーなどから収集される膨大な情報を人がコンピュータを使って処理するという形態には限界があります。こういった問題を解決するため、自動化やAI（人工知能）が発展し、社会はまた一歩進み始めています。このような背景から、授業の後半では、社会におけるデータ・AIの利活用の実際を事例を中心に学びます。
授業の進め方
授業では社会における情報処理の仕組みやシステムなどについて解説します。 理解確認や知識定着のために、ほぼ毎回の授業で課題があります。数回の授業でグループワークに取り組みます。
授業の到達目標
・コンピュータやインターネットなどの基礎的な情報技術について理解する。 ・社会における情報システム、またIoTなどの新しい情報技術について理解する。 ・AIや自動化の技術により、社会が変化していることを理解する。
授業計画
【前　期】 １　ガイダンス：これまでの社会変化 ２　【第1部 情報技術の基礎】 「情報」・「情報処理」とは何か ３　コンピュータの仕組み（ハードウェア） ４　コンピュータの仕組み（ソフトウェア） ５　コンピュータの仕組み（ネットワーク） ６　情報システム①（代表的な情報システム） ７　情報システム②（情報システムのセキュリティ） ８　【第2部　社会におけるデータ・AI利活用】 Society5.0・社会で起きている変化 ９　社会で活用されているデータ 10　データ・AIの活用領域 11　データ・AI利活用のための技術 12　データ・AI利活用の現場 13　データ・AI利活用の最新動向 14　課題学習（今後の社会、AI時代に求められる人材について話し合う） 15　授業の総括と学習　果の検証、他の科目との関連性（深く学ぶために）
績評価基準
・コンピュータやインターネットなどの基礎的な情報技術に関する知識を身につけているか。 ・社会における情報システム、またIoTなどの新しい情報技術について理解できているか。 ・AIや自動化の技術により、社会が変化していることを理解しているか。
定期試験
前期定期試験：あり
績評価方法
・前期定期試験：70% ・課題などの提出物：30%
教材
授業内で指示します。
準備学習（予習・復習）等
・授業内容を理解するために必要であれば積極的に図書館などで情報関連書籍を調べたり、インターネットを駆使して調べたりしてください。 ・予習としては平素より、各種メディアから発信される情報に注目し、情報社会における情報の流れや情報処理について関心を持つことを心がけてください。 ・授業中にノートやメモをきちんと取り、授業後にはノートを整理し、しっかり復習してください。
受講における注意点
主体的、積極的に授業に参加してください。 詳細は第1回目の授業で伝えます。 この科目は、「AI・データサイエンスプログラム（基礎）」の修了認定に必要な必修科目です（詳細は履修の手引きを参照のこと）。

2023年度

授業科目名	データリテラシー		
読替え科目	情報活用Ｂ、データ処理基礎		
担当者	宇治　典貞、梶浦　大起、佐藤　敦子、中谷　陽仁、矢野　芳人		
開講時期	後期	単位	2

サブタイトル

基礎から始めるデータサイエンス

科目の概要

経営による意思決定にもAIが活用されています。AIを活用する理由は、売上や客数を予測した販促計画、Webサイトの行動データからの商品別の売上予測などビッグデータを用いた統計が行えるからです。このように大量のデータを整理し、その中から必要な情報を取り上げ、問題を解決したり、今後の予測を立てたりする手法をデータサイエンスと言います。
授業では、エクセルを使った実習を主としてデータサイエンスの基礎を学びます。エクセルの基本の復習から始め、データの分析手法の基礎を身につけます。次に模擬データを用いてのデータ活用事例を紹介し、分析を行い、データから何が読み取れるのか、適切に説明する方法などを学びます。

授業の進め方

毎回の授業では、まず学習する項目について解説したあと、サンプルデータを配布し、エクセルを用いた例題学習、課題学習に取り組んでもらいます。実習は、教科書の説明を参照し、受講生同士が協力し合い、また、教員の助けを得ながら進めてください。理解度を確認し、知識を定着させるために数回の小テストを実施します。

授業の到達目標

・表計算ソフトを用いて、データの分析方法と表現方法を習得する。
・統計の考え方やルールなどの統計の基礎的な知識を身につける。
・得られた分析結果や考察内容を他者にわかりやすく伝える力を身につける。

授業計画

【後　期】
1　ガイダンス：なぜデータリテラシーが必要なのか？
2　Excelの基本①基本操作
3　Excelの基本②関数の利用
4　分析手法を知る①データベース活用の基本
5　分析手法を知る②ピボットテーブル
6　分析手法を知る③グラフ作成
7　分析手法を知る④標本調査／代表値とデータのばらつき
8　分析手法を知る⑤確率の基礎
9　分析手法を知る⑥データの相関／回帰分析
10　データの活用事例に学ぶ①顧客データの分析(1)
11　データの活用事例に学ぶ②顧客データの分析(2)
12　データの活用事例に学ぶ③販売データの分析による仕入れ計画
13　データの活用事例に学ぶ④サンプリングによる品質管理
14　データの活用事例に学ぶ⑤分析結果を考察しよう
15　授業の総括と学習成果の検証

第1回のガイダンスでは受講上の重要事項など説明しますので、受講希望者は必ず出席してください。

成績評価基準

・表計算ソフトを用いたデータの分析方法と表現方法を習得しているか。
・統計の考え方やルールなどの統計の基礎的な知識を身につけているか。
・得られた分析結果や考察内容を他者にわかりやすく伝える力を身につけているか。

定期試験

学年末定期試験：なし

成績評価方法

・毎回の授業での実習への取り組み状況（30%）
　毎回の実習や課題提出などに積極的・主体的に取り組んだかを評価対象とする。
・課題等提出物の内容（70%）
・課題の提出率が2割未満の場合は、評価不能としてE判定となります。

教材

種別	著者	書名	出版社	出版年
テキスト	保本 正芳	はじめの第一歩 基礎からはじめる データサイエンス	noa出版	2022

適宜、資料も配布します。

準備学習（予習・復習）等

次回までに実習内容を復習し、確実に習得してください。
欠席した場合は授業内容を確認し、次回の授業までに自習して、授業の進度から遅れないようにしてください。
次回の授業に必要な準備については、適宜指示します。

受講における注意点

・表計算ソフトの初歩的技能（「情報リテラシーＢ」で修得する程度）を修得していることが望ましい。
・統計に関する予備知識は必要ありませんが、理論を学ぶために「統計学Ⅰ」を受講することを推奨します。
・高校数学の教科書「数学１」「数学A」の教科書を使用する場合がありますので、参照できるようにしておいてください。
・この科目は、「AI・データサイエンスプログラム（基礎）」の修了認定に必要な選択必修科目です（詳細は履修の手引きを参照のこと）。もう一つの選択必修科目「社会調査法」もあわせて履修することで、授業内容の理解が深まります。

2023年度

授業科目名	情報社会と倫理		
担当者	宇治　典貞、梶浦　大起、正木　幸子、矢野　芳人		
開講時期	後期	単位	2

サブタイトル
情報社会で主体的に生きるために必要な知識や問題点について学ぶ
科目の概要
情報社会におけるさまざまな問題を知り、理解し、それらについて考えることにより、情報社会で主体的に生きるための能力を身につけることを目標とします。 情報社会では、技術の発展により便利になり、大きな可能性に満ちています。スマホなどの普及により、SNSなどの新しいコミュニケーション手段が使われ、その一方で、思いがけない問題が生じることもあります。また、AI（人工知能）の利活用が進むなかで、個人データが大量に収集・分析できるようにもなりました。その中で個人データを保護し、プライバシーを守るかも考えなくてはなりません。より善い社会を形成しようとする考え方や規範である情報倫理を事例を取り上げて学びます。
授業の進め方
この授業ではできるだけ身近な事例を取り上げて、分かりやすく講義します。理解確認や知識定着のためのミニレポート等の提出を求める場合があります。また、数回の授業でグループワークに取り組みます。
授業の到達目標
・情報社会で起こるさまざまな問題や危険について理解する ・情報社会において快適な生活をおくるための規律や規範について理解する ・情報セキュリティの脅威を知り、そのリスクマネジメントができるようになる ・AI活用や情報に関する事件などの時事ニュースを読み解くための知識を身につける
授業計画
【後　期】 1　ガイダンス：「情報社会と倫理」について 2　倫理学とは 3　情報社会とその諸問題①情報や情報社会とその特徴 4　情報社会とその諸問題②ネット依存と健康被害 5　情報社会とその諸問題③メディアリテラシー 6　インターネット上の人権①プライバシーと個人情報 7　インターネット上の人権②さらしやデジタルタトゥー 8　インターネット上の人権③ヘイトサイトや差別と誹謗中傷 9　データ・AIを扱う上での留意事項①AIの仕組みと社会に与える影響 10　データ・AIを扱う上での留意事項②AIが集める個人情報とリスク 11　課題学習（AIの責任所在について話し合う） 12　データを守る上での留意事項①情報セキュリティ 13　データを守る上での留意事項②知的財産権、著作権 14　課題学習（時事ニュースや身近な出来事から考える） 15　講義の総括
成績評価基準
・情報社会で起こるさまざまな問題や危険について理解できているか ・情報社会において快適な生活をおくるための規律や規範について理解できているか ・情報セキュリティの脅威を理解し、そのリスクマネジメントができるか ・AI活用や情報に関する事件などの時事ニュースを読み解くための知識を身につけているか
定期試験
学年末定期試験：あり
成績評価方法
・学年末定期試験：70% ・授業中の提出物など：30%
教材
授業内で指示します。
準備学習（予習・復習）等
事前に次回の資料を授業支援システムを利用して配布したり、課題を課したりする場合もあります。予習して授業に臨んでください。 授業で理解しにくいことがあれば、図書館などで情報関連書籍を調べたり、インターネットを駆使して調べたりしててください。
受講における注意点
主体的、積極的に授業に参加してください。詳細は第1回目の授業で伝えます。 この科目は、「AI・データサイエンスプログラム（基礎）」の修了認定に必要な必修科目です（詳細は履修の手引きを参照のこと）。

2023年度

授業科目名	社会調査法		
担当者	林　萍萍		
開講時期	前期	単位	2

サブタイトル
データを使いこなす
科目の概要
「アンケートの結果は、どうやってまとめればいいの？」「統計のことはわからない……」大丈夫です。コツを身に付ければ、道具としての統計はむずかしくありません。データ分析の世界に踏み出して、調査データを使いこなしましょう。ビジネスの現場では、顧客のニーズを知るためのマーケティング調査をはじめとして、いろいろな場面で社会調査のデータが活用されています。この講義では、調査データをどのように分析すれば、役に立つ情報を得ることができるのか、その統計的な扱い方を学習します。最後に、学習した内容を活用して、実データを分析する課題に取り組みます。
授業の進め方
膨大な資料を整理したり、自分の主張の裏付けを取ったりするためには、統計的なデータ分析が欠かせません。数字が苦手な人は尻込みをするかもしれませんが、大丈夫です。道具としての統計分析は難しくありません。いくつかのコツを習得して、調査データを使いこなせるようになりましょう。
授業の到達目標
・調査データを適切に読み取れるようになる。 ・調査データを適切に集計し、要約できるようになる。 ・調査データに対して、適切な分析方法が提案できるようになる。
授業計画
【前　期】 １　なぜ調査データを「分析」するのか ２　データを代表する値―平均と割合― ３　データの散らばり―分散と標準偏差― ４　平均と割合の比較 ５　データの比較―標準得点― ６　データの関係―散布図と相関係数― ７　データのまとめ方―クロス集計― ８　グラフの使い分け ９　データの取り方―母集団と標本― 10　データの確かさ―標準誤差と区間推定― 11　データの予測―仮説の立て方― 12　データで確かめる―統計的仮説検定― 13　データの限界―相関関係と因果関係― 14　データを読み取る―既存統計資料の紹介― 15　調査データが「使える」ために―総括―
成績評価　準
・　本的なデータ集計やグラフを作成できるか。 ・　本的な統計量の意味を正しく理解しているか。 ・適切な分析方法を提案できるか。 ・課題の提出回数が総回数の半分を下回る場合は、「評価外（E）」と判定します。
定期試験
前期定期試験：なし
成績評価方法
小テスト40% 授業内課題40% レポート20%
教材
教材は適宜配布する。
準備学習（予習・復習）等
それぞれの概念が相互に関連しているので、分からないところを放っておくと授業についてこれなくなります。次の授業までに、しっかり復習して不明な点を解消してください。
受講における注意点
・統計学の予備知識はまったく必要ありません。 ・この科目は、社会調査士資格の必修科目です。 ・この科目は、AI・データサイエンス教育プログラム（　礎）の選択必修科目です。もう１つの選択必修科目「データリテラシー」もあわせて履修することで、授業内容の理解が深まります。 ・電卓を毎回持参してください。

経済学部　経済学科　科目表　（令和5年度～令和6年度入学生用）

5E

①ソフトパワー関係科目（クールジャパン領域）

授業科目名	配当	単位	必選	チェック
日本の生活文化	1	2	○	
遊戯文化史	1	2	○	
まんが文化論	1	2	○	
先端文化（ゲーム）論	1	2	○	
アニメーション文化論	1	2	○	
映像文化論	1	2	○	
アートと経済	1	2	○	
ファッション文化論	1	2	○	
日本の衣・染織文化	1	1	○	
日本の華道	1	1	○	
日本の祭事	1	1	○	
日本の住文化	1	1	○	
日本の食文化	1	1	○	
日本の茶道	1	1	○	
地域文化事情A	1	2	○	
地域文化事情B	1	2	○	
地域文化事情C	1	2	○	
異文化比較論	1	2	○	
異文化コミュニケーション	1	2	○	
現代海外事情A	1	2	○	
現代海外事情B	1	2	○	
現代海外事情C	1	2	○	
日本文化事情	1	2	○	※1
6単位以上修得				

②ソフトパワー関係科目（人間関係性領域）

授業科目名	配当	単位	必選	チェック
哲学Ⅰ	1	2	○	
哲学Ⅱ	1	2	○	
心理学Ⅰ	1	2	○	
心理学Ⅱ	1	2	○	
社会学概論	1	2	○	
社会福祉入門	1	2	○	
人間形成論Ⅰ	1	2	○	
人間形成論Ⅱ	1	2	○	
人権教育論Ⅰ	1	2	○	
人権教育論Ⅱ	1	2	○	
情報社会と倫理	1	2	○	
環境論Ⅰ	1	2	○	
環境論Ⅱ	1	2	○	
倫理学Ⅰ	1	2	○	
倫理学Ⅱ	1	2	○	
人間社会とギャンブル	1	2	○	
現代社会と依存	1	2	○	
犯罪学Ⅰ	1	2	○	
犯罪学Ⅱ	1	2	○	
生涯学習論	2	2	○	
ライフコース論Ⅰ	1	2	○	
ライフコース論Ⅱ	1	2	○	
現代社会論Ⅰ	1	2	○	
現代社会論Ⅱ	1	2	○	
社会心理学	1	2	○	
結婚と家族Ⅰ	1	2	○	
結婚と家族Ⅱ	1	2	○	
人間と宗教	1	2	○	
ストレスマネジメント	2	2	○	
芸術と人間	2	2	○	
社会調査統計学	2	2	○	
社会科学方法論	2	2	○	
社会調査入門	1	2	○	
社会調査法	1	2	○	
社会調査演習	3	4	○	
8単位以上修得				

③ソフトパワー関係科目（地域探究領域）

授業科目名	配当	単位	必選	チェック
地域探究論	1	2	○	
地域探究実践Ⅰ	1	2	○	
地域探究実践Ⅱ	1	2	○	
地域探究実践Ⅲ	1	2	○	
地域探究特殊講義	1	2	○	
地域連携史Ⅰ	1	2	○	
地域連携史Ⅱ	1	2	○	
地域連携史Ⅲ	1	2	○	
大阪の歴史と文化Ⅰ	1	2	○	
大阪の歴史と文化Ⅱ	1	2	○	
浪花のコミュニケーションⅠ	1	2	○	
浪花のコミュニケーションⅡ	1	2	○	
4単位以上修得				

④ソフトパワー関係科目（教養基礎領域）

授業科目名	配当	単位	必選	チェック
世界史Ⅰ	1	2	○	
世界史Ⅱ	1	2	○	
世界史概説	1	4	○	
日本史Ⅰ	1	2	○	
日本史Ⅱ	1	2	○	
日本史概説	1	4	○	
法学概論（国際法含）	1	2	○	
日本国憲法	1	2	○	
政治学	1	2	○	
国際政治学	1	2	○	
地理学Ⅰ	1	2	○	
地理学Ⅱ	1	2	○	
数学入門	1	2	○	
数学（線形代数）Ⅰ	1	2	○	
数学（線形代数）Ⅱ	1	2	○	
数学（微分積分）Ⅰ	1	2	○	
数学（微分積分）Ⅱ	1	2	○	
統計学Ⅰ	1	2	○	
統計学Ⅱ	1	2	○	
4単位以上修得				

⑤語学科目

	授業科目名	配当	単位	必選	チェック
基礎領域	英語ⅠA	1	1	★	
	英語ⅠB	1	1	★	
	英語ⅡA	1	1	★	
	英語ⅡB	1	1	★	
	中国語ⅠA	1	1	○	
	中国語ⅠB	1	1	○	
	日本語ⅠA	1	1	○	※2
	日本語ⅠB	1	1	○	※2
実践領域	CALLⅠ	1	1	○	
	CALLⅡ	2	1	○	
	資格英語Ⅰ	1	1	○	
	資格英語Ⅱ	1	1	○	
	英語で読む・書くⅠ	1	2	○	
	英語で読む・書くⅡ	1	2	○	
	英語で読む・書くⅢ（経済・経営）	2	2	○	
	ビジネスイングリッシュ	1	2	○	
	英語コミュニケーションⅠ	1	1	○	
	英語コミュニケーションⅡ	2	1	○	
	中国語ⅡA	2	1	○	
	中国語ⅡB	2	1	○	
	中国語コミュニケーション	2	1	○	
	日本語ⅡA	1	1	○	
	日本語ⅡB	1	1	○	
	ハングル入門	1	2	○	
	留学のための語学セミナーⅠ	2	4	○	※3
	留学のための語学セミナーⅡ	2	4	○	※3
	アドバンスト語学セミナー	3	2	○	※3
4単位以上修得					

⑥情報科目

	授業科目名	配当	単位	必選	チェック
情報基礎領域	情報処理概論	1	2	○	
	情報リテラシーA	1	2	○	
	情報リテラシーB	1	2	○	
	プレゼンテーション基礎	1	2	○	
	データリテラシー	1	2	○	
	メディアリテラシー	1	2	○	
	情報技術の発展	1	2	○	
	情報とビジネス	1	2	○	
情報応用領域	コンピュータシステムⅠ	2	2	○	
	コンピュータシステムⅡ	2	2	○	
	デジタルメディアⅠ	2	2	○	
	デジタルメディアⅡ	2	2	○	
	プログラミングⅠ	2	2	○	
	プログラミングⅡ	2	2	○	
	WEB情報デザインⅠ	2	2	○	
	WEB情報デザインⅡ	2	2	○	
	情報ネットワークⅠ	2	2	○	
	情報ネットワークⅡ	2	2	○	
	マルチメディア情報表現Ⅰ	2	2	○	
	マルチメディア情報表現Ⅱ	2	2	○	
4単位以上修得					

⑦健康・スポーツ科目

授業科目名	配当	単位	必選	チェック
スポーツ実習Ⅰ	1	1	○	
スポーツ実習Ⅱ	1	1	○	
生涯スポーツ論Ⅰ	1	2	○	
生涯スポーツ論Ⅱ	1	2	○	
健康心理学	1	2	○	
健康と運動の心理学	2	2	○	
食と運動	1	2	○	
スポーツコンディショニング演習	2	2	○	
4単位以上修得				

【副専攻科目で修得すべき最低単位数】

科目・領域	それぞれの科目・領域から	副専攻科目全体から
ソフトパワー関係科目 ①クールジャパン領域	6単位	どの科目・領域からでもよい
ソフトパワー関係科目 ②人間関係性領域	8単位	
ソフトパワー関係科目 ③地域探究領域	4単位	
ソフトパワー関係科目 ④教養基礎領域	4単位	
⑤語学科目（基礎領域・実践領域）	4単位	
⑥情報科目（情報基礎領域・情報応用領域）	4単位	
⑦健康・スポーツ科目	4単位	
小計	34単位	12単位
副専攻科目①～⑦の合計	46単位	

※1　認定留学生は必修
※2　留学生は必修
※3　派遣留学生対象科目。ただし、「留学のための語学セミナーⅠ」「留学のための語学セミナーⅡ」は必修。

⑧演習科目

授業科目名	配当	単位	必選	チェック
ゼミナールⅠA	1	2	★	
ゼミナールⅠB	1	2	★	
ゼミナールⅡ	2	4	○	
フィールドワークゼミナールⅡ	2	4	○	
ゼミナールⅢ	3	4	○	
フィールドワークゼミナールⅢ	3	4	○	
ゼミナールⅣ	4	4	○	
フィールドワークゼミナールⅣ	4	4	○	

(1)ゼミⅠA・ⅠBは必修。
(2)ゼミⅡとFWゼミⅡはいずれか１科目を修得。
(3)ゼミⅢとFWゼミⅢはいずれか１科目を修得。
(1)～(3)科目を修得できなかった場合、代わりに下記のとおり必要な科目を修得しなければなりません。
ゼミⅠAまたはゼミⅠBを修得できなかった場合
→⑩基幹科目を２単位多く修得
ゼミⅠAとゼミⅠBの両方を修得できなかった場合
→⑩基幹科目を４単位多く修得
ゼミⅡまたはFWゼミⅡを修得できなかった場合
→⑪専門科目を４単位多く修得
ゼミⅢまたはFWゼミⅢを修得できなかった場合
→⑪専門科目を４単位多く修得
(4)ゼミⅣまたはFWゼミⅣを修得した場合は、⑪専門科目の単位として計算。

⑨基礎科目

授業科目名	配当	単位	必選	チェック
マクロ経済学入門	1	2	★	
ミクロ経済学入門	1	2	★	
一般経済史Ⅰ	1	2	★	
一般経済史Ⅱ	1	2	★	
現代経済Ⅰ	1	2	★	
現代経済Ⅱ	1	2	★	
12単位必修				

⑩基幹科目

授業科目名	配当	単位	必選	チェック
マクロ経済学	2	4	○	
ミクロ経済学	2	4	○	
金融論Ⅰ	2	2	○	
金融論Ⅱ	2	2	○	
財政学Ⅰ	2	2	○	
財政学Ⅱ	2	2	○	
公共経済学Ⅰ	2	2	○	
公共経済学Ⅱ	2	2	○	
国際経済学Ⅰ	2	2	○	
国際経済学Ⅱ	2	2	○	
労働経済学	2	2	○	
経済統計学	2	4	○	
日本経済史Ⅰ	2	2	○	
日本経済史Ⅱ	2	2	○	
西洋経済史Ⅰ	2	2	○	
西洋経済史Ⅱ	2	2	○	
地域産業事情Ⅰ	3	2	○	
地域産業事情Ⅱ	3	2	○	

20単位以上を修得
ゼミⅠAまたはゼミⅠBを修得できなかった場合は、
22単位以上を修得しなければなりません。
ゼミⅠAとゼミⅠBの両方を修得できなかった場合は、
24単位以上を修得しなければなりません。

⑪専門科目

	授業科目名	配当	単位	必選	チェック
経済学科設置科目	経済政策	2	2	○	
	経済学史	2	4	○	
	産業組織論Ⅰ	2	2	○	
	産業組織論Ⅱ	2	2	○	
	計量経済学	3	2	○	
	環境経済学	2	2	○	
	経済変動論	2	2	○	
	経済システム論Ⅰ	2	2	○	
	経済システム論Ⅱ	2	2	○	
	社会思想史	2	4	○	
	日本経済論Ⅰ	2	2	○	
	日本経済論Ⅱ	2	2	○	
	アジア経済論Ⅰ	3	2	○	
	アジア経済論Ⅱ	3	2	○	
	貿易論	2	2	○	
	社会政策Ⅰ	2	2	○	
	社会政策Ⅱ	2	2	○	
	産業政策	3	2	○	
	地域経済学Ⅰ	2	2	○	
	地域経済学Ⅱ	2	2	○	
	都市経済学	3	2	○	
	中国経済論Ⅰ	3	2	○	
	中国経済論Ⅱ	3	2	○	
	アメリカ経済論Ⅰ	3	2	○	
	アメリカ経済論Ⅱ	3	2	○	
	EU経済史Ⅰ	3	2	○	
	EU経済史Ⅱ	3	2	○	
	現代ロシア経済論	3	2	○	
	中近東アフリカ経済史	3	2	○	
	地域社会と中小企業	3	2	○	
	地域産業振興論	3	2	○	
	国際金融	3	2	○	
	農業経済学	2	2	○	
	農業経営論	2	2	○	
	交通経済学	2	2	○	
	交通経済論	2	2	○	
	開発経済学	3	2	○	
	文化経済学	3	2	○	
	サービス経済学	3	2	○	
	経済地理	3	2	○	
	事業承継概論	2	2	○	
	グローバル競争論	3	2	○	
	中小企業金融	3	2	○	
	土地利用制度	2	2	○	
	建築と居住環境	2	2	○	
	不動産事業経営論Ⅰ	2	2	○	
	不動産事業経営論Ⅱ	2	2	○	
	証券経済論	2	2	○	
	不動産分析	3	2	○	
	都市開発論	3	2	○	
	経済学特殊講義Ⅰ	3	2	○	
	経済学特殊講義Ⅱ	3	2	○	
	経済学特殊講義Ⅲ	3	2	○	
	知的財産制度	3	2	○	
他学科設置科目	企業法（組織法）	3	2	○	
	企業法（行為法）	3	2	○	
	経営学概論Ⅰ	1	2	○	
	経営学概論Ⅱ	1	2	○	
	経営戦略論Ⅰ	2	2	○	
	経営戦略論Ⅱ	2	2	○	
	簿記論	1	2	○	
	財務諸表の基礎	1	2	○	
	民法総則	2	2	○	
	物権法	2	2	○	
	アントレプレナー（起業家）論	1	2	○	
	中小企業論Ⅰ	3	2	○	
	中小企業論Ⅱ	3	2	○	
	債権法総論	2	2	○	
	債権法各論	2	2	○	
	地域経営論	2	2	○	
	観光論	2	2	○	
	経営リーダーシップ論	2	2	○	
	税法概論	2	2	○	
全学共通	ビジネス・インターンシップ	3	2	○	

26単位以上を修得
⑧演習科目の下記科目を修得できなかった場合、代わりに下記のとおり必要な単位数を修得しなければなりません。
ゼミⅡまたはFWゼミⅡを修得できなかった場合 →30単位以上を修得
ゼミⅢまたはFWゼミⅢを修得できなかった場合 →30単位以上を修得
ゼミⅡとゼミⅢの両方を修得できなかった場合 →34単位以上を修得
（FWゼミⅡとFWゼミⅢの両方を修得できなかった場合も上記同様）
ただし⑧演習科目のゼミⅣまたはFWゼミⅣを修得した場合は、
専門科目の単位として計算します。

⑫自由選択科目

	授業科目名	配当	単位	必選	チェック
他学科科目	国際経営論Ⅰ	2	2	○	
	国際経営論Ⅱ	2	2	○	
	グローバル経済と日本A	3	2	○	
	グローバル経済と日本B	3	2	○	
	国際開発論基礎	2	2	○	
	国際開発論応用	2	2	○	
	商学概論Ⅰ	1	2	○	
	商学概論Ⅱ	1	2	○	
	経営管理論Ⅰ	2	2	○	
	経営管理論Ⅱ	2	2	○	
	経営組織論Ⅰ	2	2	○	
	経営組織論Ⅱ	2	2	○	
	経営統計論Ⅰ	2	2	○	
	中小企業政策論	3	2	○	
	経営財務管理総論	2	2	○	
	経営財務管理各論	2	2	○	
	企業診断論	3	2	○	
	経営分析論Ⅰ	3	2	○	
	経営分析論Ⅱ	3	2	○	
	管理会計論Ⅰ	3	2	○	
	管理会計論Ⅱ	3	2	○	
	インターネットとビジネス	2	2	○	
	ビジネス情報システムⅠA	2	2	○	
	ビジネス情報システムⅠB	2	2	○	
	ビジネス情報システムⅡA	2	2	○	
	ビジネス情報システムⅡB	2	2	○	
	流通論	2	2	○	
	流通組織論	2	2	○	
	サービス産業論	2	2	○	
	サービス経営論	2	2	○	
	商業経営論Ⅰ	3	2	○	
	商業経営論Ⅱ	3	2	○	
	消費者行動論	3	2	○	
	公共経営論	1	2	○	
	公共政策	2	2	○	
	経営統計論Ⅱ	2	2	○	
	原価計算論Ⅰ	3	2	○	
	原価計算論Ⅱ	3	2	○	
	税務会計論Ⅰ	3	2	○	
	税務会計論Ⅱ	3	2	○	
	マーケティング戦略論Ⅰ	2	2	○	
	マーケティング戦略論Ⅱ	2	2	○	
	地域文化論	2	2	○	
	観光政策論	3	2	○	
	住宅政策	2	2	○	
キャリア科目	法学特講A	1	2	○	
	法学特講B	1	2	○	
	総合教養A	1	2	○	
	総合教養B	1	2	○	
	総合教養C	1	2	○	
	総合教養D	1	2	○	
	総合教養E	1	2	○	
	総合教養F	1	2	○	
	経済学特講A	3	4	○	
	経済学特講B	3	4	○	
	民法特講A	2	4	○	
	民法特講B	2	4	○	
	地域連携教育活動	2	2	○	
	社会科概説	3	2	○	
	商業科概説	3	2	○	
	キャリアデザイン入門	1	2	○	
	キャリアデザイン応用	2	2	○	
	オフィスコンピューティングⅠ	2	2	○	
	オフィスコンピューティングⅡ	2	2	○	

8単位以上修得
ただし、①～⑦で合計46単位を超えて修得した単位及び⑩、⑪で必要以上に修得した単位も自由選択科目の単位として計算することができます。

ゼミⅠA…ゼミナールⅠA
ゼミⅠB…ゼミナールⅠB
ゼミⅡ…ゼミナールⅡ
ゼミⅢ…ゼミナールⅢ
ゼミⅣ…ゼミナールⅣ
FWゼミⅡ…フィールドワークゼミナールⅡ
FWゼミⅢ…フィールドワークゼミナールⅢ
FWゼミⅣ…フィールドワークゼミナールⅣ

総合経営学部　経営学科　科目表　（令和５年度～令和６年度入学生用）

5M

①ソフトパワー関係科目（クールジャパン領域）

授業科目名	配当	単位	必選	ﾁｪｯｸ
日本の生活文化	1	2	○	
遊戯文化史	1	2	○	
まんが文化論	1	2	○	
先端文化（ゲーム）論	1	2	○	
アニメーション文化論	1	2	○	
映像文化論	1	2	○	
アートと経済	1	2	○	
ファッション文化論	1	2	○	
日本の衣・染織文化	1	1	○	
日本の華道	1	1	○	
日本の祭事	1	1	○	
日本の住文化	1	1	○	
日本の食文化	1	1	○	
日本の茶道	1	1	○	
地域文化事情A	1	2	○	
地域文化事情B	1	2	○	
地域文化事情C	1	2	○	
異文化比較論	1	2	○	
異文化コミュニケーション	1	2	○	
現代海外事情A	1	2	○	
現代海外事情B	1	2	○	
現代海外事情C	1	2	○	
日本文化事情	1	2	○	※1
6単位以上修得				

②ソフトパワー関係科目（人間関係性領域）

授業科目名	配当	単位	必選	ﾁｪｯｸ
哲学Ⅰ	1	2	○	
哲学Ⅱ	1	2	○	
心理学Ⅰ	1	2	○	
心理学Ⅱ	1	2	○	
社会学概論	1	2	○	
社会福祉入門	1	2	○	
人間形成論Ⅰ	1	2	○	
人間形成論Ⅱ	1	2	○	
人権教育論Ⅰ	1	2	○	
人権教育論Ⅱ	1	2	○	
情報社会と倫理	1	2	○	
環境論Ⅰ	1	2	○	
環境論Ⅱ	1	2	○	
倫理学Ⅰ	1	2	○	
倫理学Ⅱ	1	2	○	
人間社会とギャンブル	1	2	○	
現代社会と依存	1	2	○	
犯罪学Ⅰ	1	2	○	
犯罪学Ⅱ	1	2	○	
生涯学習論	2	2	○	
ライフコース論Ⅰ	1	2	○	
ライフコース論Ⅱ	1	2	○	
現代社会論Ⅰ	1	2	○	
現代社会論Ⅱ	1	2	○	
社会心理学	1	2	○	
結婚と家族Ⅰ	1	2	○	
結婚と家族Ⅱ	1	2	○	
人間と宗教	1	2	○	
ストレスマネジメント	2	2	○	
芸術と人間	2	2	○	
社会調査統計学	2	2	○	
社会科学方法論	2	2	○	
社会調査入門	1	2	○	
社会調査法	1	2	○	
社会調査演習	3	4	○	
8単位以上修得				

③ソフトパワー関係科目（地域探究領域）

授業科目名	配当	単位	必選	ﾁｪｯｸ
地域探究論	1	2	○	
地域探究実践Ⅰ	1	2	○	
地域探究実践Ⅱ	1	2	○	
地域探究実践Ⅲ	1	2	○	
地域探究特殊講義	1	2	○	
地域連携史Ⅰ	1	2	○	
地域連携史Ⅱ	1	2	○	
地域連携史Ⅲ	1	2	○	
大阪の歴史と文化Ⅰ	1	2	○	
大阪の歴史と文化Ⅱ	1	2	○	
浪花のコミュニケーションⅠ	1	2	○	
浪花のコミュニケーションⅡ	1	2	○	
4単位以上修得				

④ソフトパワー関係科目（教養基礎領域）

授業科目名	配当	単位	必選	ﾁｪｯｸ
世界史Ⅰ	1	2	○	
世界史Ⅱ	1	2	○	
世界史概説	1	4	○	
日本史Ⅰ	1	2	○	
日本史Ⅱ	1	2	○	
日本史概説	1	4	○	
法学概論（国際法含）	1	2	○	
日本国憲法	1	2	○	
政治学	1	2	○	
国際政治学	1	2	○	
地理学Ⅰ	1	2	○	
地理学Ⅱ	1	2	○	
数学入門	1	2	○	
数学（線形代数）Ⅰ	1	2	○	
数学（線形代数）Ⅱ	1	2	○	
数学（微分積分）Ⅰ	1	2	○	
数学（微分積分）Ⅱ	1	2	○	
統計学Ⅰ	1	2	○	
統計学Ⅱ	1	2	○	
4単位以上修得				

⑤語学科目

	授業科目名	配当	単位	必選	ﾁｪｯｸ
基礎領域	英語ⅠA	1	1	★	
	英語ⅠB	1	1	★	
	英語ⅡA	1	1	★	
	英語ⅡB	1	1	★	
	中国語ⅠA	1	1	○	
	中国語ⅠB	1	1	○	
	日本語ⅠA	1	1	○	※2
	日本語ⅠB	1	1	○	※2
実践領域	CALLⅠ	1	1	○	
	CALLⅡ	2	1	○	
	資格英語Ⅰ	1	1	○	
	資格英語Ⅱ	1	1	○	
	英語で読む・書くⅠ	1	2	○	
	英語で読む・書くⅡ	1	2	○	
	英語で読む・書くⅢ（経済・経営）	2	2	○	
	ビジネスイングリッシュ	1	2	○	
	英語コミュニケーションⅠ	1	1	○	
	英語コミュニケーションⅡ	2	1	○	
	中国語ⅡA	2	1	○	
	中国語ⅡB	2	1	○	
	中国語コミュニケーション	2	1	○	
	日本語ⅡA	1	1	○	
	日本語ⅡB	1	1	○	
	ハングル入門	1	2	○	
	留学のための語学セミナーⅠ	2	4	○	※3
	留学のための語学セミナーⅡ	2	4	○	※3
	アドバンスト語学セミナー	3	2	○	※3
4単位以上修得					

⑥情報科目

	授業科目名	配当	単位	必選	ﾁｪｯｸ
情報基礎領域	情報処理概論	1	2	○	
	情報リテラシーA	1	2	○	
	情報リテラシーB	1	2	○	
	プレゼンテーション基礎	1	2	○	
	データリテラシー	1	2	○	
	メディアリテラシー	1	2	○	
	情報技術の発展	1	2	○	
	情報とビジネス	1	2	○	
情報応用領域	コンピュータシステムⅠ	2	2	○	
	コンピュータシステムⅡ	2	2	○	
	デジタルメディアⅠ	2	2	○	
	デジタルメディアⅡ	2	2	○	
	プログラミングⅠ	2	2	○	
	プログラミングⅡ	2	2	○	
	WEB情報デザインⅠ	2	2	○	
	WEB情報デザインⅡ	2	2	○	
	情報ネットワークⅠ	2	2	○	
	情報ネットワークⅡ	2	2	○	
	マルチメディア情報表現Ⅰ	2	2	○	
	マルチメディア情報表現Ⅱ	2	2	○	
4単位以上修得					

⑦健康・スポーツ科目

授業科目名	配当	単位	必選	ﾁｪｯｸ
スポーツ実習Ⅰ	1	1	○	
スポーツ実習Ⅱ	1	1	○	
生涯スポーツ論Ⅰ	1	2	○	
生涯スポーツ論Ⅱ	1	2	○	
健康心理学	1	2	○	
健康と運動の心理学	2	2	○	
食と運動	1	2	○	
スポーツコンディショニング演習	2	2	○	
4単位以上修得				

【副専攻科目で修得すべき最低単位数】

科目・領域	それぞれの科目・領域から	副専攻科目全体から
ソフトパワー関係科目 ①クールジャパン領域	6単位	どの科目・領域からでもよい
②人間関係性領域	8単位	
③地域探究領域	4単位	
④教養基礎領域	4単位	
⑤語学科目（基礎領域・実践領域）	4単位	
⑥情報科目（情報基礎領域・情報応用領域）	4単位	
⑦健康・スポーツ科目	4単位	
小計	34単位	12単位
副専攻科目①～⑦の合計	46単位	

※1　認定留学生は必修
※2　留学生は必修
※3　派遣留学生対象科目。ただし、「留学のための語学セミナーⅠ」「留学のための語学セミナーⅡ」は必修。

⑧演習科目

授業科目名	配当	単位	必選	ﾁｪｯｸ
ゼミナールⅠA	1	2	★	
ゼミナールⅠB	1	2	★	
ゼミナールⅡ	2	4	○	
フィールドワークゼミナールⅡ	2	4	○	
ゼミナールⅢ	3	4	○	
フィールドワークゼミナールⅢ	3	4	○	
ゼミナールⅣ	4	4	○	
フィールドワークゼミナールⅣ	4	4	○	

(1)ゼミⅠA・ⅠBは必修。
(2)ゼミⅡとFWゼミⅡはいずれか１科目を修得。
(3)ゼミⅢとFWゼミⅢはいずれか１科目を修得。
(1)～(3)科目を修得できなかった場合、代わりに下記のとおり必要な科目を修得しなければなりません。
ゼミⅠAまたはゼミⅠBを修得できなかった場合
→⑩基幹科目を２単位多く修得
ゼミⅠAとゼミⅠBの両方を修得できなかった場合
→⑩基幹科目を４単位多く修得
ゼミⅡまたはFWゼミⅡを修得できなかった場合
→⑪専門科目を４単位多く修得
ゼミⅢまたはFWゼミⅢを修得できなかった場合
→⑪専門科目を４単位多く修得
(4)ゼミⅣまたはFWゼミⅣを修得した場合は、⑪専門科目の単位として計算。

⑨基礎科目

授業科目名	配当	単位	必選	ﾁｪｯｸ
経営学概論Ⅰ	1	2	★	
経営学概論Ⅱ	1	2	★	
簿記論	1	2	★	
財務諸表の基礎	1	2	★	
経営情報概論Ⅰ	1	2	★	
経営情報概論Ⅱ	1	2	★	
１２単位必修				

⑩基幹科目

授業科目名	配当	単位	必選	ﾁｪｯｸ
経営管理論Ⅰ	2	2	○	
経営管理論Ⅱ	2	2	○	
経営戦略論Ⅰ	2	2	○	
経営戦略論Ⅱ	2	2	○	
経営組織論Ⅰ	2	2	○	
経営組織論Ⅱ	2	2	○	
国際経営論Ⅰ	2	2	○	
国際経営論Ⅱ	2	2	○	
経営財務管理総論	2	2	○	
経営財務管理各論	2	2	○	
会社会計論Ⅰ	2	2	○	
会社会計論Ⅱ	2	2	○	
工業簿記論Ⅰ	2	2	○	
工業簿記論Ⅱ	2	2	○	
経営情報論Ⅰ	2	2	○	
経営情報論Ⅱ	2	2	○	
ビジネス情報システムⅠA	2	2	○	
ビジネス情報システムⅠB	2	2	○	
ビジネス・プログラミングⅠ	2	2	○	
ビジネス・プログラミングⅡ	2	2	○	
民法総則	2	2	○	
物権法	2	2	○	
商法（商取引法Ⅰ）	2	2	○	
商法（商取引法Ⅱ）	2	2	○	
２０単位以上を修得 ゼミⅠAまたはゼミⅠBを修得できなかった場合は、 ２２単位以上を修得しなければなりません。 ゼミⅠAとゼミⅠBの両方を修得できなかった場合は、 ２４単位以上を修得しなければなりません。				

⑪専門科目

		授業科目名	配当	単位	必選	ﾁｪｯｸ
企業経営分野		人的資源管理論Ⅰ	2	2	○	
		人的資源管理論Ⅱ	2	2	○	
		生産管理論	3	2	○	
		企業診断論	3	2	○	
		国際人的資源管理論	3	2	○	
		経営倫理学	3	2	○	
		経営史Ⅰ	2	2	○	
		経営史Ⅱ	2	2	○	
		経営学史	3	2	○	
		アントレプレナー（起業家）論	1	2	○	
		経営リーダーシップ論	2	2	○	
		中小企業論Ⅰ	3	2	○	
		中小企業論Ⅱ	3	2	○	
		中小企業政策論	3	2	○	
		マネジメント・ゲーム	3	2	○	
		地域社会と中小企業	3	2	○	
		地域産業振興論	3	2	○	
		産業社会の変遷	3	2	○	
		産業社会における就業の現状	3	2	○	
会計分野		コンピュータ会計概論	2	2	○	
		コンピュータ会計処理論	2	2	○	
		ビジネス数学概論	2	4	○	
		管理会計論Ⅰ	3	2	○	
		管理会計論Ⅱ	3	2	○	
		財務会計論Ⅰ	3	2	○	
		財務会計論Ⅱ	3	2	○	
		原価計算論Ⅰ	3	2	○	
		原価計算論Ⅱ	3	2	○	
		監査論Ⅰ	3	2	○	
		監査論Ⅱ	3	2	○	
		国際会計論	3	2	○	
		英文会計	3	2	○	
		税法概論	2	2	○	
		税務会計論Ⅰ	3	2	○	
		税務会計論Ⅱ	3	2	○	
		経営分析論Ⅰ	3	2	○	
		経営分析論Ⅱ	3	2	○	
情報分野		インターネットとビジネス	2	2	○	
		経営科学Ⅰ	2	2	○	
		経営科学Ⅱ	2	2	○	
		経営統計論Ⅰ	2	2	○	
		経営統計論Ⅱ	2	2	○	
		経営情報処理論A－Ⅰ	2	2	○	
		経営情報処理論A－Ⅱ	2	2	○	
		経営情報処理論B－Ⅰ	3	2	○	
		経営情報処理論B－Ⅱ	3	2	○	
		ビジネス情報システムⅡA	2	2	○	
		ビジネス情報システムⅡB	2	2	○	
		コラボレーションコンピューティング	3	2	○	
共通科目	分野共通	債権法総論	2	2	○	
		債権法各論	2	2	○	
		商法（会社総論）	3	2	○	
		商法（会社各論）	3	2	○	
		企業法（組織法）	3	2	○	
		企業法（行為法）	3	2	○	
		経営学特殊講義Ⅰ	3	2	○	
		経営学特殊講義Ⅱ	3	2	○	
		経営学特殊講義Ⅲ	3	2	○	
	他学科設置共通	商学概論Ⅰ	1	2	○	
		商学概論Ⅱ	1	2	○	
		公共経営論	1	2	○	
		国際開発論基礎	2	2	○	
		国際開発論応用	2	2	○	
		グローバル経済と日本A	3	2	○	
		グローバル経済と日本B	3	2	○	
		国際取引法の基礎	3	2	○	
		国際取引法の応用	3	2	○	
		知的財産制度	3	2	○	
全学共通		ビジネス・インターンシップ	3	2	○	
26単位以上を修得 ⑧演習科目の下記科目を修得できなかった場合、代わりに下記のとおり必要な単位数を修得しなければなりません。 ゼミⅡまたはFWゼミⅡを修得できなかった場合 →30単位以上を修得 ゼミⅢまたはFWゼミⅢを修得できなかった場合 →30単位以上を修得 ゼミⅡとゼミⅢの両方を修得できなかった場合 →34単位以上を修得 （FWゼミⅡとFWゼミⅢの両方を修得できなかった場合も上記同様） ただし⑧演習科目のゼミⅣまたはFWゼミⅣを修得した場合は、専門科目の単位として計算します。						

⑫自由選択科目

授業科目名	配当	単位	必選	ﾁｪｯｸ
商業史Ⅰ	1	2	○	
商業史Ⅱ	1	2	○	
流通論	2	2	○	
流通組織論	2	2	○	
物流産業論	2	2	○	
物流管理論	2	2	○	
サービス産業論	2	2	○	
サービス経営論	2	2	○	
マーケティング戦略論Ⅰ	2	2	○	
マーケティング戦略論Ⅱ	2	2	○	
消費者行動論	3	2	○	
商業経営論Ⅰ	3	2	○	
商業経営論Ⅱ	3	2	○	
アジア経済論Ⅰ	3	2	○	
アジア経済論Ⅱ	3	2	○	
中国経済論Ⅰ	3	2	○	
中国経済論Ⅱ	3	2	○	
EU経済史Ⅰ	3	2	○	
EU経済史Ⅱ	3	2	○	
アメリカ経済論Ⅰ	3	2	○	
アメリカ経済論Ⅱ	3	2	○	
中近東アフリカ経済史	3	2	○	
現代ロシア経済論	3	2	○	
ミクロ経済学入門	1	2	○	
マクロ経済学入門	1	2	○	
現代経済Ⅰ	1	2	○	
現代経済Ⅱ	1	2	○	
ミクロ経済学	2	4	○	
経済統計学	2	4	○	
計量経済学	3	2	○	
産業組織論Ⅰ	2	2	○	
産業組織論Ⅱ	2	2	○	
国際経済学Ⅰ	2	2	○	
国際経済学Ⅱ	2	2	○	
中小企業金融	3	2	○	
法学特講A	1	2	○	
法学特講B	1	2	○	
総合教養A	1	2	○	
総合教養B	1	2	○	
総合教養C	1	2	○	
総合教養D	1	2	○	
総合教養E	1	2	○	
総合教養F	1	2	○	
経済学特講A	3	4	○	
経済学特講B	3	4	○	
民法特講A	2	4	○	
民法特講B	2	4	○	
地域連携教育活動	2	2	○	
社会科概説	3	2	○	
商業科概説	3	2	○	
キャリアデザイン入門	1	2	○	
キャリアデザイン応用	2	2	○	
オフィスコンピューティングⅠ	2	2	○	
オフィスコンピューティングⅡ	2	2	○	
8単位以上修得 ただし、①～⑦で合計46単位を超えて修得した単位及び⑩、⑪で必要以上に修得した単位も自由選択科目の単位として計算することができます。				

ゼミⅠA・・・ゼミナールⅠA
ゼミⅠB・・・ゼミナールⅠB
ゼミⅡ・・・ゼミナールⅡ
ゼミⅢ・・・ゼミナールⅢ
ゼミⅣ・・・ゼミナールⅣ
FWゼミⅡ・・・フィールドワークゼミナールⅡ
FWゼミⅢ・・・フィールドワークゼミナールⅢ
FWゼミⅣ・・・フィールドワークゼミナールⅣ

総合経営学部　商学科　科目表　（令和５年度～令和６年度入学生用）

①ソフトパワー関係科目（クールジャパン領域）

授業科目名	配当	単位	必選	チェック
日本の生活文化	1	2	○	
遊戯文化史	1	2	○	
まんが文化論	1	2	○	
先端文化（ゲーム）論	1	2	○	
アニメーション文化論	1	2	○	
映像文化論	1	2	○	
アートと経済	1	2	○	
ファッション文化論	1	2	○	
日本の衣・染織文化	1	1	○	
日本の華道	1	1	○	
日本の祭事	1	1	○	
日本の住文化	1	1	○	
日本の食文化	1	1	○	
日本の茶道	1	1	○	
地域文化事情A	1	2	○	
地域文化事情B	1	2	○	
地域文化事情C	1	2	○	
異文化比較論	1	2	○	
異文化コミュニケーション	1	2	○	
現代海外事情A	1	2	○	
現代海外事情B	1	2	○	
現代海外事情C	1	2	○	
日本文化事情	1	2	○	※1
6単位以上修得				

②ソフトパワー関係科目（人間関係性領域）

授業科目名	配当	単位	必選	チェック
哲学Ⅰ	1	2	○	
哲学Ⅱ	1	2	○	
心理学Ⅰ	1	2	○	
心理学Ⅱ	1	2	○	
社会学概論	1	2	○	
社会福祉入門	1	2	○	
人間形成論Ⅰ	1	2	○	
人間形成論Ⅱ	1	2	○	
人権教育論Ⅰ	1	2	○	
人権教育論Ⅱ	1	2	○	
情報社会と倫理	1	2	○	
環境論Ⅰ	1	2	○	
環境論Ⅱ	1	2	○	
倫理学Ⅰ	1	2	○	
倫理学Ⅱ	1	2	○	
人間社会とギャンブル	1	2	○	
現代社会と依存	1	2	○	
犯罪学Ⅰ	1	2	○	
犯罪学Ⅱ	1	2	○	
生涯学習論	2	2	○	
ライフコース論Ⅰ	1	2	○	
ライフコース論Ⅱ	1	2	○	
現代社会論Ⅰ	1	2	○	
現代社会論Ⅱ	1	2	○	
社会心理学	1	2	○	
結婚と家族Ⅰ	1	2	○	
結婚と家族Ⅱ	1	2	○	
人間と宗教	1	2	○	
ストレスマネジメント	2	2	○	
芸術と人間	2	2	○	
社会調査統計学	2	2	○	
社会科学方法論	2	2	○	
社会調査入門	1	2	○	
社会調査法	1	2	○	
社会調査演習	3	4	○	
8単位以上修得				

③ソフトパワー関係科目（地域探究領域）

授業科目名	配当	単位	必選	チェック
地域探究論	1	2	○	
地域探究実践Ⅰ	1	2	○	
地域探究実践Ⅱ	1	2	○	
地域探究実践Ⅲ	1	2	○	
地域探究特殊講義	1	2	○	
地域連携史Ⅰ	1	2	○	
地域連携史Ⅱ	1	2	○	
地域連携史Ⅲ	1	2	○	
大阪の歴史と文化Ⅰ	1	2	○	
大阪の歴史と文化Ⅱ	1	2	○	
浪花のコミュニケーションⅠ	1	2	○	
浪花のコミュニケーションⅡ	1	2	○	
4単位以上修得				

④ソフトパワー関係科目（教養基礎領域）

授業科目名	配当	単位	必選	チェック
世界史Ⅰ	1	2	○	
世界史Ⅱ	1	2	○	
世界史概説	1	4	○	
日本史Ⅰ	1	2	○	
日本史Ⅱ	1	2	○	
日本史概説	1	4	○	
法学概論（国際法含）	1	2	○	
日本国憲法	1	2	○	
政治学	1	2	○	
国際政治学	1	2	○	
地理学Ⅰ	1	2	○	
地理学Ⅱ	1	2	○	
数学入門	1	2	○	
数学（線形代数）Ⅰ	1	2	○	
数学（線形代数）Ⅱ	1	2	○	
数学（微分積分）Ⅰ	1	2	○	
数学（微分積分）Ⅱ	1	2	○	
統計学Ⅰ	1	2	○	
統計学Ⅱ	1	2	○	
4単位以上修得				

⑤語学科目

	授業科目名	配当	単位	必選	チェック
基礎領域	英語ⅠA	1	1	★	
	英語ⅠB	1	1	★	
	英語ⅡA	1	1	★	
	英語ⅡB	1	1	★	
	中国語ⅠA	1	1	○	
	中国語ⅠB	1	1	○	
	日本語ⅠA	1	1	○	※2
	日本語ⅠB	1	1	○	※2
実践領域	CALLⅠ	1	1	○	
	CALLⅡ	2	1	○	
	資格英語Ⅰ	1	1	○	
	資格英語Ⅱ	1	1	○	
	英語で読む・書くⅠ	1	2	○	
	英語で読む・書くⅡ	1	2	○	
	英語で読む・書くⅢ（経済・経営）	2	2	○	
	ビジネスイングリッシュ	1	2	○	
	英語コミュニケーションⅠ	1	1	○	
	英語コミュニケーションⅡ	2	1	○	
	中国語ⅡA	2	1	○	
	中国語ⅡB	2	1	○	
	中国語コミュニケーション	2	1	○	
	日本語ⅡA	1	1	○	
	日本語ⅡB	1	1	○	
	ハングル入門	1	2	○	
	留学のための語学セミナーⅠ	2	4	○	※3
	留学のための語学セミナーⅡ	2	4	○	※3
	アドバンスト語学セミナー	3	2	○	※3
4単位以上修得					

⑥情報科目

	授業科目名	配当	単位	必選	チェック
情報基礎領域	情報処理概論	1	2	○	
	情報リテラシーA	1	2	○	
	情報リテラシーB	1	2	○	
	プレゼンテーション基礎	1	2	○	
	データリテラシー	1	2	○	
	メディアリテラシー	1	2	○	
	情報技術の発展	1	2	○	
	情報とビジネス	1	2	○	
情報応用領域	コンピュータシステムⅠ	2	2	○	
	コンピュータシステムⅡ	2	2	○	
	デジタルメディアⅠ	2	2	○	
	デジタルメディアⅡ	2	2	○	
	プログラミングⅠ	2	2	○	
	プログラミングⅡ	2	2	○	
	WEB情報デザインⅠ	2	2	○	
	WEB情報デザインⅡ	2	2	○	
	情報ネットワークⅠ	2	2	○	
	情報ネットワークⅡ	2	2	○	
	マルチメディア情報表現Ⅰ	2	2	○	
	マルチメディア情報表現Ⅱ	2	2	○	
4単位以上修得					

⑦健康・スポーツ科目

授業科目名	配当	単位	必選	チェック
スポーツ実習Ⅰ	1	1	○	
スポーツ実習Ⅱ	1	1	○	
生涯スポーツ論Ⅰ	1	2	○	
生涯スポーツ論Ⅱ	1	2	○	
健康心理学	1	2	○	
健康と運動の心理学	2	2	○	
食と運動	1	2	○	
スポーツコンディショニング演習	2	2	○	
4単位以上修得				

【副専攻科目で修得すべき最低単位数】

科目・領域		それぞれの科目・領域から	副専攻科目全体から
ソフトパワー関係科目	①クールジャパン領域	6単位	どの科目・領域からでもよい
	②人間関係性領域	8単位	
	③地域探究領域	4単位	
	④教養基礎領域	4単位	
⑤語学科目（基礎領域・実践領域）		4単位	
⑥情報科目（情報基礎領域・情報応用領域）		4単位	
⑦健康・スポーツ科目		4単位	
小計		34単位	12単位
副専攻科目①～⑦の合計		46単位	

※1　認定留学生は必修
※2　留学生は必修
※3　派遣留学生対象科目。ただし、「留学のための語学セミナーⅠ」「留学のための語学セミナーⅡ」は必修。

⑧演習科目

授業科目名	配当	単位	必選	チェック
ゼミナールⅠA	1	2	★	
ゼミナールⅠB	1	2	★	
ゼミナールⅡ	2	4	○	
フィールドワークゼミナールⅡ	2	4	○	
ゼミナールⅢ	3	4	○	
フィールドワークゼミナールⅢ	3	4	○	
ゼミナールⅣ	4	4	○	
フィールドワークゼミナールⅣ	4	4	○	

(1)ゼミⅠA・ⅠBは必修。
(2)ゼミⅡとFWゼミⅡはいずれか１科目を修得。
(3)ゼミⅢとFWゼミⅢはいずれか１科目を修得。
(1)～(3)科目を修得できなかった場合、代わりに下記のとおり必要な科目を修得しなければなりません。
ゼミⅠAまたはゼミⅠBを修得できなかった場合
→⑩基幹科目を２単位多く修得
ゼミⅠAとゼミⅠBの両方を修得できなかった場合
→⑩基幹科目を４単位多く修得
ゼミⅡまたはFWゼミⅡを修得できなかった場合
→⑪専門科目を４単位多く修得
ゼミⅢまたはFWゼミⅢを修得できなかった場合
→⑪専門科目を４単位多く修得
(4)ゼミⅣまたはFWゼミⅣを修得した場合は、⑪専門科目の単位として計算。

⑨基礎科目

授業科目名	配当	単位	必選	チェック
商学概論Ⅰ	1	2	★	
商学概論Ⅱ	1	2	★	
簿記論	1	2	★	
財務諸表の基礎	1	2	★	
経営学概論Ⅰ	1	2	★	
経営学概論Ⅱ	1	2	★	
１２単位必修				

⑩基幹科目

授業科目名	配当	単位	必選	チェック
マーケティング戦略論Ⅰ	2	2	○	
マーケティング戦略論Ⅱ	2	2	○	
消費者行動論	3	2	○	
流通論	2	2	○	
流通組織論	2	2	○	
物流産業論	2	2	○	
物流管理論	2	2	○	
サービス産業論	2	2	○	
サービス経営論	2	2	○	
会社会計論Ⅰ	2	2	○	
会社会計論Ⅱ	2	2	○	
管理会計論Ⅰ	3	2	○	
管理会計論Ⅱ	3	2	○	
インターネットとビジネス	2	2	○	
ビジネス・プログラミングⅠ	2	2	○	
ビジネス・プログラミングⅡ	2	2	○	
２０単位以上を修得 ゼミⅠAまたはゼミⅠBを修得できなかった場合は、 ２２単位以上を修得しなければなりません。 ゼミⅠAとゼミⅠBの両方を修得できなかった場合は、 ２４単位以上を修得しなければなりません。				

⑪専門科目

	授業科目名	配当	単位	必選	チェック
マーケティング分野	国際経営論Ⅰ	2	2	○	
	国際経営論Ⅱ	2	2	○	
	国際マーケティング論基礎	3	2	○	
	国際マーケティング論応用	3	2	○	
	サービス・マーケティング	3	2	○	
	商業経営論Ⅰ	3	2	○	
	商業経営論Ⅱ	3	2	○	
	製品戦略論	3	2	○	
	サプライチェーンマネジメント	3	2	○	
	マーケティングリサーチ	3	2	○	
	グローバル経済と日本A	3	2	○	
	グローバル経済と日本B	3	2	○	
流通分野	商業史Ⅰ	1	2	○	
	商業史Ⅱ	1	2	○	
	国際流通史Ⅰ	2	2	○	
	国際流通史Ⅱ	2	2	○	
	貿易論	2	2	○	
	交通論Ⅰ	2	2	○	
	交通論Ⅱ	2	2	○	
	流通金融論Ⅰ	2	2	○	
	流通金融論Ⅱ	2	2	○	
	国際開発論基礎	2	2	○	
	国際開発論応用	2	2	○	
	流通チャネル論	3	2	○	
	流通情報システム論	3	2	○	
	流通政策論	3	2	○	
共通科目 分野共通	債権法総論	2	2	○	
	債権法各論	2	2	○	
	商法（商取引法Ⅰ）	2	2	○	
	商法（商取引法Ⅱ）	2	2	○	
	商法（会社総論）	3	2	○	
	商法（会社各論）	3	2	○	
	民法総則	2	2	○	
	物権法	2	2	○	
	企業法（組織法）	3	2	○	
	企業法（行為法）	3	2	○	
	国際取引法の基礎	3	2	○	
	国際取引法の応用	3	2	○	
	商学特殊講義Ⅰ	3	2	○	
	商学特殊講義Ⅱ	3	2	○	
	商学特殊講義Ⅲ	3	2	○	
共通科目 他学科設置共通	経営財務管理総論	2	2	○	
	経営財務管理各論	2	2	○	
	経営分析論Ⅰ	3	2	○	
	経営分析論Ⅱ	3	2	○	
	企業診断論	3	2	○	
	経営情報概論Ⅰ	1	2	○	
	経営情報概論Ⅱ	1	2	○	
	経営情報論Ⅰ	2	2	○	
	経営情報論Ⅱ	2	2	○	
	ビジネス情報システムⅠA	2	2	○	
	ビジネス情報システムⅠB	2	2	○	
	ビジネス情報システムⅡA	2	2	○	
	ビジネス情報システムⅡB	2	2	○	
	コラボレーションコンピューティング	3	2	○	
	リゾートマネジメント	2	2	○	
	余暇政策論	2	2	○	
	知的財産制度	3	2	○	
	地域社会と中小企業	3	2	○	
	地域産業振興論	3	2	○	
	中小企業論Ⅰ	3	2	○	
	中小企業論Ⅱ	3	2	○	
全学共通	ビジネス・インターンシップ	3	2	○	
26単位以上を修得 ⑧演習科目の下記科目を修得できなかった場合、代わりに下記のとおり必要な単位数を修得しなければなりません。 ゼミⅡまたはFWゼミⅡを修得できなかった場合 →30単位以上を修得 ゼミⅢまたはFWゼミⅢを修得できなかった場合 →30単位以上を修得 ゼミⅡとゼミⅢの両方を修得できなかった場合 →34単位以上を修得 （FWゼミⅡとFWゼミⅢの両方を修得できなかった場合も上記同様） ただし⑧演習科目のゼミⅣまたはFWゼミⅣを修得した場合は、 専門科目の単位として計算します。				

⑫自由選択科目

	授業科目名	配当	単位	必選	チェック
他学科科目	経営管理論Ⅰ	2	2	○	
	経営管理論Ⅱ	2	2	○	
	経営戦略論Ⅰ	2	2	○	
	経営戦略論Ⅱ	2	2	○	
	経営組織論Ⅰ	2	2	○	
	経営組織論Ⅱ	2	2	○	
	経営史Ⅰ	2	2	○	
	経営史Ⅱ	2	2	○	
	経営リーダーシップ論	2	2	○	
	アントレプレナー（起業家）論	1	2	○	
	工業簿記論Ⅰ	2	2	○	
	工業簿記論Ⅱ	2	2	○	
	コンピュータ会計概論	2	2	○	
	コンピュータ会計処理論	2	2	○	
	財務会計論Ⅰ	3	2	○	
	財務会計論Ⅱ	3	2	○	
	原価計算論Ⅰ	3	2	○	
	原価計算論Ⅱ	3	2	○	
	国際会計論	3	2	○	
	英文会計	3	2	○	
	税法概論	2	2	○	
	税務会計論Ⅰ	3	2	○	
	税務会計論Ⅱ	3	2	○	
	監査論Ⅰ	3	2	○	
	監査論Ⅱ	3	2	○	
	経営統計論Ⅰ	2	2	○	
	経営統計論Ⅱ	2	2	○	
	経営情報処理論A－Ⅰ	2	2	○	
	経営情報処理論A－Ⅱ	2	2	○	
	経営情報処理論B－Ⅰ	3	2	○	
	経営情報処理論B－Ⅱ	3	2	○	
	アジア経済論Ⅰ	3	2	○	
	アジア経済論Ⅱ	3	2	○	
	中国経済論Ⅰ	3	2	○	
	中国経済論Ⅱ	3	2	○	
	EU経済史Ⅰ	3	2	○	
	EU経済史Ⅱ	3	2	○	
	アメリカ経済論Ⅰ	3	2	○	
	アメリカ経済論Ⅱ	3	2	○	
	中近東アフリカ経済史	3	2	○	
	現代ロシア経済論	3	2	○	
	ミクロ経済学入門	1	2	○	
	マクロ経済学入門	1	2	○	
	現代経済Ⅰ	1	2	○	
	現代経済Ⅱ	1	2	○	
	産業組織論Ⅰ	2	2	○	
	産業組織論Ⅱ	2	2	○	
	経済統計学	2	4	○	
	計量経済学	3	2	○	
	国際経済学Ⅰ	2	2	○	
	国際経済学Ⅱ	2	2	○	
キャリア科目	法学特講A	1	2	○	
	法学特講B	1	2	○	
	総合教養A	1	2	○	
	総合教養B	1	2	○	
	総合教養C	1	2	○	
	総合教養D	1	2	○	
	総合教養E	1	2	○	
	総合教養F	1	2	○	
	経済学特講A	3	4	○	
	経済学特講B	3	4	○	
	民法特講A	2	4	○	
	民法特講B	2	4	○	
	地域連携教育活動	2	2	○	
	社会科概説	3	2	○	
	商業科概説	3	2	○	
	キャリアデザイン入門	1	2	○	
	キャリアデザイン応用	2	2	○	
	オフィスコンピューティングⅠ	2	2	○	
	オフィスコンピューティングⅡ	2	2	○	
8単位以上修得 ただし、①～⑦で合計46単位を超えて修得した単位及び⑩、⑪で必要以上に修得した単位も自由選択科目の単位として計算することができます。					

ゼミⅠA･･･ゼミナールⅠA
ゼミⅠB･･･ゼミナールⅠB
ゼミⅡ･･･ゼミナールⅡ
ゼミⅢ･･･ゼミナールⅢ
ゼミⅣ･･･ゼミナールⅣ
FWゼミⅡ･･･フィールドワークゼミナールⅡ
FWゼミⅢ･･･フィールドワークゼミナールⅢ
FWゼミⅣ･･･フィールドワークゼミナールⅣ

公共学部　公共学科　科目表　（令和５年度～令和６年度入学生用）

①ソフトパワー関係科目（クールジャパン領域）

授業科目名	配当	単位	必選	チェック
日本の生活文化	1	2	○	
遊戯文化史	1	2	○	
まんが文化論	1	2	○	
先端文化（ゲーム）論	1	2	○	
アニメーション文化論	1	2	○	
映像文化論	1	2	○	
アートと経済	1	2	○	
ファッション文化論	1	2	○	
日本の衣・染織文化	1	1	○	
日本の華道	1	1	○	
日本の祭事	1	1	○	
日本の住文化	1	1	○	
日本の食文化	1	1	○	
日本の茶道	1	1	○	
地域文化事情A	1	2	○	
地域文化事情B	1	2	○	
地域文化事情C	1	2	○	
異文化比較論	1	2	○	
異文化コミュニケーション	1	2	○	
現代海外事情A	1	2	○	
現代海外事情B	1	2	○	
現代海外事情C	1	2	○	
日本文化事情	1	2	○	※1
6単位以上修得				

②ソフトパワー関係科目（人間関係性領域）

授業科目名	配当	単位	必選	チェック
哲学Ⅰ	1	2	○	
哲学Ⅱ	1	2	○	
心理学Ⅰ	1	2	○	
心理学Ⅱ	1	2	○	
社会学概論	1	2	○	
社会福祉入門	1	2	○	
人間形成論Ⅰ	1	2	○	
人間形成論Ⅱ	1	2	○	
人権教育論Ⅰ	1	2	○	
人権教育論Ⅱ	1	2	○	
情報社会と倫理	1	2	○	
環境論Ⅰ	1	2	○	
環境論Ⅱ	1	2	○	
倫理学Ⅰ	1	2	○	
倫理学Ⅱ	1	2	○	
人間社会とギャンブル	1	2	○	
現代社会と依存	1	2	○	
犯罪学Ⅰ	1	2	○	
犯罪学Ⅱ	1	2	○	
生涯学習論	2	2	○	
ライフコース論Ⅰ	1	2	○	
ライフコース論Ⅱ	1	2	○	
現代社会論Ⅰ	1	2	○	
現代社会論Ⅱ	1	2	○	
社会心理学	1	2	○	
結婚と家族Ⅰ	1	2	○	
結婚と家族Ⅱ	1	2	○	
人間と宗教	1	2	○	
ストレスマネジメント	2	2	○	
芸術と人間	2	2	○	
社会調査統計学	2	2	○	
社会科学方法論	2	2	○	
社会調査入門	1	2	○	
社会調査法	1	2	○	
社会調査演習	3	4	○	
8単位以上修得				

③ソフトパワー関係科目（地域探究領域）

授業科目名	配当	単位	必選	チェック
地域探究論	1	2	○	
地域探究実践Ⅰ	1	2	○	
地域探究実践Ⅱ	1	2	○	
地域探究実践Ⅲ	1	2	○	
地域探究特殊講義	1	2	○	
地域連携史Ⅰ	1	2	○	
地域連携史Ⅱ	1	2	○	
地域連携史Ⅲ	1	2	○	
大阪の歴史と文化Ⅰ	1	2	○	
大阪の歴史と文化Ⅱ	1	2	○	
浪花のコミュニケーションⅠ	1	2	○	
浪花のコミュニケーションⅡ	1	2	○	
4単位以上修得				

④ソフトパワー関係科目（教養基礎領域）

授業科目名	配当	単位	必選	チェック
世界史Ⅰ	1	2	○	
世界史Ⅱ	1	2	○	
世界史概説	1	4	○	
日本史Ⅰ	1	2	○	
日本史Ⅱ	1	2	○	
日本史概説	1	4	○	
法学概論（国際法含）	1	2	○	
日本国憲法	1	2	○	
政治学	1	2	○	
国際政治学	1	2	○	
地理学Ⅰ	1	2	○	
地理学Ⅱ	1	2	○	
数学入門	1	2	○	
数学（線形代数）Ⅰ	1	2	○	
数学（線形代数）Ⅱ	1	2	○	
数学（微分積分）Ⅰ	1	2	○	
数学（微分積分）Ⅱ	1	2	○	
統計学Ⅰ	1	2	○	
統計学Ⅱ	1	2	○	
4単位以上修得				

⑤語学科目

授業科目名	配当	単位	必選	チェック
基礎領域				
英語ⅠA	1	1	★	
英語ⅠB	1	1	★	
英語ⅡA	1	1	★	
英語ⅡB	1	1	★	
中国語ⅠA	1	1	○	
中国語ⅠB	1	1	○	
日本語ⅠA	1	1	○	※2
日本語ⅠB	1	1	○	※2
実践領域				
CALLⅠ	1	1	○	
CALLⅡ	2	1	○	
資格英語Ⅰ	1	1	○	
資格英語Ⅱ	1	1	○	
英語で読む・書くⅠ	1	2	○	
英語で読む・書くⅡ	1	2	○	
英語で読む・書くⅢ（経済・経営）	2	2	○	
ビジネスイングリッシュ	1	2	○	
英語コミュニケーションⅠ	1	1	○	
英語コミュニケーションⅡ	2	1	○	
中国語ⅡA	2	1	○	
中国語ⅡB	2	1	○	
中国語コミュニケーション	2	1	○	
日本語ⅡA	1	1	○	
日本語ⅡB	1	1	○	
ハングル入門	1	2	○	
留学のための語学セミナーⅠ	2	4	○	※3
留学のための語学セミナーⅡ	2	4	○	※3
アドバンスト語学セミナー	3	2	○	※3
4単位以上修得				

⑥情報科目

授業科目名	配当	単位	必選	チェック
情報基礎領域				
情報処理概論	1	2	○	
情報リテラシーA	1	2	○	
情報リテラシーB	1	2	○	
プレゼンテーション基礎	1	2	○	
データリテラシー	1	2	○	
メディアリテラシー	1	2	○	
情報技術の発展	1	2	○	
情報とビジネス	1	2	○	
情報応用領域				
コンピュータシステムⅠ	2	2	○	
コンピュータシステムⅡ	2	2	○	
デジタルメディアⅠ	2	2	○	
デジタルメディアⅡ	2	2	○	
プログラミングⅠ	2	2	○	
プログラミングⅡ	2	2	○	
WEB情報デザインⅠ	2	2	○	
WEB情報デザインⅡ	2	2	○	
情報ネットワークⅠ	2	2	○	
情報ネットワークⅡ	2	2	○	
マルチメディア情報表現Ⅰ	2	2	○	
マルチメディア情報表現Ⅱ	2	2	○	
4単位以上修得				

⑦健康・スポーツ科目

授業科目名	配当	単位	必選	チェック
スポーツ実習Ⅰ	1	1	○	
スポーツ実習Ⅱ	1	1	○	
生涯スポーツ論Ⅰ	1	2	○	
生涯スポーツ論Ⅱ	1	2	○	
健康心理学	1	2	○	
健康と運動の心理学	2	2	○	
食と運動	1	2	○	
スポーツコンディショニング演習	2	2	○	
4単位以上修得				

【副専攻科目で修得すべき最低単位数】

科目・領域		それぞれの科目・領域から	副専攻科目全体から
ソフトパワー関係科目	①クールジャパン領域	6単位	どの科目・領域からでもよい
	②人間関係性領域	8単位	
	③地域探究領域	4単位	
	④教養基礎領域	4単位	
⑤語学科目（基礎領域・実践領域）		4単位	
⑥情報科目（情報基礎領域・情報応用領域）		4単位	
⑦健康・スポーツ科目		4単位	
小計		34単位	12単位
副専攻科目①～⑦の合計		46単位	

※1　認定留学生は必修
※2　留学生は必修
※3　派遣留学生対象科目。ただし、「留学のための語学セミナーⅠ」「留学のための語学セミナーⅡ」は必修。

⑧演習科目

授業科目名	配当	単位	必選	チェック
ゼミナールⅠA	1	2	★	
ゼミナールⅠB	1	2	★	
ゼミナールⅡ	2	4	○	
フィールドワークゼミナールⅡ	2	4	○	
ゼミナールⅢ	3	4	○	
フィールドワークゼミナールⅢ	3	4	○	
ゼミナールⅣ	4	4	○	
フィールドワークゼミナールⅣ	4	4	○	

(1)ゼミⅠA・ⅠBは必修。
(2)ゼミⅡとFWゼミⅡはいずれか１科目を修得。
(3)ゼミⅢとFWゼミⅢはいずれか１科目を修得。
(1)～(3)科目を修得できなかった場合、代わりに下記のとおり必要な科目を修得しなければなりません。
ゼミⅠAまたはゼミⅠBを修得できなかった場合
→⑩基幹科目を２単位多く修得
ゼミⅠAとゼミⅠBの両方を修得できなかった場合
→⑩基幹科目を４単位多く修得
ゼミⅡまたはFWゼミⅡを修得できなかった場合
→⑪専門科目を４単位多く修得
ゼミⅢまたはFWゼミⅢを修得できなかった場合
→⑪専門科目を４単位多く修得
(4)ゼミⅣまたはFWゼミⅣを修得した場合は、⑪専門科目の単位として計算。

⑨基礎科目

授業科目名	配当	単位	必選	チェック
公共学Ⅰ	1	2	★	
公共学Ⅱ	1	2	★	
公共経営学入門	1	2	★	
経営学概論Ⅰ	1	2	★	
経営学概論Ⅱ	1	2	★	
絆のネットワーク論	1	2	★	
１２単位必修				

⑩基幹科目

授業科目名	配当	単位	必選	チェック
公共経営論	2	2	○	
NPO論	1	2	○	
NPO経営戦略論	2	2	○	
現代社会と公共倫理	2	2	○	
公営企業論	2	2	○	
企業の社会的責任論	2	2	○	
公共政策	2	2	○	
社会政策Ⅰ	2	2	○	
社会政策Ⅱ	2	2	○	
財政学Ⅰ	2	2	○	
財政学Ⅱ	2	2	○	
地域経済学Ⅰ	2	2	○	
地域経済学Ⅱ	2	2	○	
社会貢献論	2	2	○	
地域コミュニティ論	1	2	○	
地域開発事情	1	2	○	
観光論	2	2	○	
地域経営論	2	2	○	
地域社会参加論	2	2	○	
スポーツビジネス経営論	2	2	○	
スポーツ事業論	1	2	○	
スポーツ活動マネジメント	2	2	○	
スポーツキャリアカウンセリング	2	2	○	
スポーツ文化論	2	2	○	
頭脳スポーツ文化論	2	2	○	

２０単位以上を修得
ゼミⅠAまたはゼミⅠBを修得できなかった場合は、
２２単位以上を修得しなければなりません。
ゼミⅠAとゼミⅠBの両方を修得できなかった場合は、
２４単位以上を修得しなければなりません。

⑪専門科目

授業科目名	配当	単位	必選	チェック
公共学科設置科目				
公企業会計総論	2	2	○	
社会福祉論	2	2	○	
地域福祉政策論	3	2	○	
地域環境論	2	2	○	
環境保全論	2	2	○	
地域観光史	2	2	○	
観光政策論	3	2	○	
地域社会と中小企業	3	2	○	
地域産業振興論	3	2	○	
海外地域研修	1	2	○	
公営ギャンブル論	3	2	○	
ギャンブル等依存症論	3	2	○	
レジャーと法	3	2	○	
リゾートマネジメント	2	2	○	
土地利用制度	2	2	○	
住宅政策	2	2	○	
都市の地政学	3	2	○	
文化政策と地域開発	3	2	○	
協同組合論	3	2	○	
地域社会と法	3	2	○	
余暇政策論	2	2	○	
地域スポーツ論	2	2	○	
地域スポーツ指導論	2	2	○	
フィットネススポーツ演習	2	2	○	
レクリエーションスポーツ演習	2	2	○	
アダプテッドスポーツ演習	2	2	○	
からだと運動	2	2	○	
地域頭脳スポーツ指導論	3	2	○	
知的ゲーミング論	2	2	○	
知的ゲーミング演習	1	2	○	
社会的企業論	2	2	○	
公共ビジネスと資金調達	3	2	○	
公共経営学特殊講義Ⅰ	3	2	○	
公共経営学特殊講義Ⅱ	3	2	○	
公共経営学特殊講義Ⅲ	3	2	○	
他学科設置科目				
公共経済学Ⅰ	2	2	○	
公共経済学Ⅱ	2	2	○	
経営戦略論Ⅰ	2	2	○	
経営戦略論Ⅱ	2	2	○	
経営分析論Ⅰ	3	2	○	
経営分析論Ⅱ	3	2	○	
経営管理論Ⅰ	2	2	○	
経営管理論Ⅱ	2	2	○	
経営リーダーシップ論	2	2	○	
インターネットとビジネス	2	2	○	
情報システムと法的保護	2	2	○	
消費者行動論	3	2	○	
製品戦略論	3	2	○	
サービス産業論	2	2	○	
マーケティング戦略論Ⅰ	2	2	○	
マーケティング戦略論Ⅱ	2	2	○	
中小企業政策論	3	2	○	
経営情報概論Ⅰ	1	2	○	
経営情報概論Ⅱ	1	2	○	
経営財務管理総論	2	2	○	
経営財務管理各論	2	2	○	
全学共通				
ビジネス・インターンシップ	3	2	○	

２６単位以上を修得
⑧演習科目の下記科目を修得できなかった場合、代わりに下記のとおり必要な単位数を修得しなければなりません。
ゼミⅡまたはFWゼミⅡを修得できなかった場合　→30単位以上を修得
ゼミⅢまたはFWゼミⅢを修得できなかった場合　→30単位以上を修得
ゼミⅡとゼミⅢの両方を修得できなかった場合　→34単位以上を修得
（FWゼミⅡとFWゼミⅢの両方を修得できなかった場合も上記同様）
ただし、⑧演習科目のゼミⅣまたはFWゼミⅣを修得した場合は、
専門科目の単位として計算します。

⑫自由選択科目

授業科目名	配当	単位	必選	チェック
他学科科目				
経営組織論Ⅰ	2	2	○	
経営組織論Ⅱ	2	2	○	
経営統計論Ⅰ	2	2	○	
経営統計論Ⅱ	2	2	○	
ビジネス情報システムⅠA	2	2	○	
ビジネス情報システムⅠB	2	2	○	
ビジネス情報システムⅡA	2	2	○	
ビジネス情報システムⅡB	2	2	○	
簿記論	1	2	○	
財務諸表の基礎	1	2	○	
管理会計論Ⅰ	3	2	○	
管理会計論Ⅱ	3	2	○	
原価計算論Ⅰ	3	2	○	
原価計算論Ⅱ	3	2	○	
企業診断論	3	2	○	
民法総則	2	2	○	
物権法	2	2	○	
商法（商取引法Ⅰ）	2	2	○	
商法（商取引法Ⅱ）	2	2	○	
商法（会社総論）	3	2	○	
商法（会社各論）	3	2	○	
知的財産制度	3	2	○	
商学概論Ⅰ	1	2	○	
商学概論Ⅱ	1	2	○	
商業経営論Ⅰ	3	2	○	
商業経営論Ⅱ	3	2	○	
ミクロ経済学	2	4	○	
マクロ経済学	2	4	○	
経済統計学	2	4	○	
産業政策	3	2	○	
経済政策	2	2	○	
企業法（組織法）	3	2	○	
企業法（行為法）	3	2	○	
マクロ経済学入門	1	2	○	
ミクロ経済学入門	1	2	○	
文化経済学	3	2	○	
環境経済学	2	2	○	
計量経済学	3	2	○	
国際経済学Ⅰ	2	2	○	
国際経済学Ⅱ	2	2	○	
アントレプレナー（起業家）論	1	2	○	
キャリア科目				
法学特講A	1	2	○	
法学特講B	1	2	○	
総合教養A	1	2	○	
総合教養B	1	2	○	
総合教養C	1	2	○	
総合教養D	1	2	○	
総合教養E	1	2	○	
総合教養F	1	2	○	
経済学特講A	3	4	○	
経済学特講B	3	4	○	
民法特講A	2	4	○	
民法特講B	2	4	○	
地域連携教育活動	2	2	○	
社会科概説	3	2	○	
商業科概説	3	2	○	
キャリアデザイン入門	1	2	○	
キャリアデザイン応用	2	2	○	
オフィスコンピューティングⅠ	2	2	○	
オフィスコンピューティングⅡ	2	2	○	

8単位以上修得
ただし、①～⑦で合計46単位を超えて修得した単位及び⑩、⑪で必要以上に修得した単位も自由選択科目の単位として計算することができます。

ゼミⅠA･･･ゼミナールⅠA
ゼミⅠB･･･ゼミナールⅠB
ゼミⅡ･･･ゼミナールⅡ
ゼミⅢ･･･ゼミナールⅢ
ゼミⅣ･･･ゼミナールⅣ
FWゼミⅡ･･･フィールドワークゼミナールⅡ
FWゼミⅢ･･･フィールドワークゼミナールⅢ
FWゼミⅣ･･･フィールドワークゼミナールⅣ

○大阪商業大学情報教育委員会規程

平成12年4月1日
最近改正　令和5年4月1日

（名称）

第1条　大阪商業大学に情報教育委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（目的）

第2条　委員会は、情報処理教育及び数理・データサイエンス・AI教育の円滑な運営を図ることを目的とする。

（審議事項）

第3条　委員会は、次の事項について審議、実施する。

(1)　情報処理教育に関する事項

(2)　大阪商業大学AI・データサイエンス教育プログラムの運営、改善・進化、自己点検・評価に関する事項

(3)　数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度の申請に関する事項

(4)　教育・研究用情報システム（機器、ネットワーク及びソフトウェア）の整備、管理に関する事項

(5)　教育・研究における情報システム利用の支援に関する事項

(6)　前5号にかかわる事業計画に関する事項

(7)　その他本学における情報処理教育及び数理・データサイエンス・AI教育の目的を達成するために必要な事項

（部会）

第4条　委員会のもとに、部会を置くことができる。

2　部会の構成員及び部会長は、学長が委嘱する。

3　部会の構成員及び部会長の任期は、第10条に準じるものとする。

（構成）

第5条　委員会は、次の者で構成する。

(1)　本学各学部専任教員のうちから学長が委嘱した者　若干名

(2)　部会長

(3)　庶務課長

(4)　教務課長

(5)　学生支援課長

2　委員会の委員長及び副委員長は、学長が委嘱する。

（招集）

第6条　委員長は、委員会を招集し、議長となる。

2　委員長に事故があるときは、委員長の指名する者が前項の職務を代行する。

3　委員長は、委員会構成員の1／3以上の者が要求したときは、委員会を招集しなければならない。

（構成員以外の者の出席）

第7条　議長が必要と認めたときは、委員以外の者を出席させることができる。ただし、議決には、参加できない。

（定足数）

第8条　委員会は、構成員の2／3以上の出席をもって成立する。ただし、休職、留学中の者は、定足数から除外する。

（決議）

第9条　議事は、出席構成員の過半数で決する。ただし、可否同数の場合には、議長の決するところによる。

（任期）

第10条　委員の任期は、原則として4月1日から翌年3月31日までの1年とする。ただし、再任は妨げない。

（所管）

第11条　委員会の事務は、教務課の所管とする。

（改廃）

第12条　この規程の改廃は、大学教授会の議を経て学長が行う。

附　則

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

附　則

1　この規程は、平成14年3月28日から施行する。

2　この規程は、平成12年4月1日施行の大阪商業大学情報処理委員会規程を改正したものである。

附　則

1　この規程は、平成20年3月12日から施行する。

2　この規程は、平成14年3月28日施行の大阪商業大学企画委員会情報処理部会規程を改正したものである。

附　則

1　この規程は、平成24年7月11日から施行し、平成24年4月1日から適用する。

2　この規程は、平成20年3月12日施行の大阪商業大学情報推進委員会規程を改正したものである。

附　則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附　則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附　則

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

○大阪商業大学情報教育委員会規程

平成12年4月1日
最近改正　令和5年4月1日

（名称）

第1条　大阪商業大学に情報教育委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（目的）

第2条　委員会は、情報処理教育及び数理・データサイエンス・AI教育の円滑な運営を図ることを目的とする。

（審議事項）

第3条　委員会は、次の事項について審議、実施する。

(1)　情報処理教育に関する事項

(2)　大阪商業大学AI・データサイエンス教育プログラムの運営、改善・進化、自己点検・評価に関する事項

(3)　数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度の申請に関する事項

(4)　教育・研究用情報システム（機器、ネットワーク及びソフトウェア）の整備、管理に関する事項

(5)　教育・研究における情報システム利用の支援に関する事項

(6)　前5号にかかわる事業計画に関する事項

(7)　その他本学における情報処理教育及び数理・データサイエンス・AI教育の目的を達成するために必要な事項

（部会）

第4条　委員会のもとに、部会を置くことができる。

2　部会の構成員及び部会長は、学長が委嘱する。

3　部会の構成員及び部会長の任期は、第10条に準じるものとする。

（構成）

第5条　委員会は、次の者で構成する。

(1)　本学各学部専任教員のうちから学長が委嘱した者　若干名

(2)　部会長

(3)　庶務課長

(4)　教務課長

(5)　学生支援課長

2　委員会の委員長及び副委員長は、学長が委嘱する。

（招集）

第6条　委員長は、委員会を招集し、議長となる。

2　委員長に事故があるときは、委員長の指名する者が前項の職務を代行する。

3　委員長は、委員会構成員の1／3以上の者が要求したときは、委員会を招集しなければならない。

（構成員以外の者の出席）

第7条　議長が必要と認めたときは、委員以外の者を出席させることができる。ただし、議決には、参加できない。

（定足数）

第8条　委員会は、構成員の2／3以上の出席をもって成立する。ただし、休職、留学中の者は、定足数から除外する。

（決議）

第9条　議事は、出席構成員の過半数で決する。ただし、可否同数の場合には、議長の決するところによる。

（任期）

第10条　委員の任期は、原則として4月1日から翌年3月31日までの1年とする。ただし、再任は妨げない。

（所管）

第11条　委員会の事務は、教務課の所管とする。

（改廃）

第12条　この規程の改廃は、大学教授会の議を経て学長が行う。

附　則

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

附　則

1　この規程は、平成14年3月28日から施行する。

2　この規程は、平成12年4月1日施行の大阪商業大学情報処理委員会規程を改正したものである。

附　則

1　この規程は、平成20年3月12日から施行する。

2　この規程は、平成14年3月28日施行の大阪商業大学企画委員会情報処理部会規程を改正したものである。

附　則

1　この規程は、平成24年7月11日から施行し、平成24年4月1日から適用する。

2　この規程は、平成20年3月12日施行の大阪商業大学情報推進委員会規程を改正したものである。

附　則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附　則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附　則

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

大学等名	**大阪商業大学**	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	AI・データサイエンス教育プログラム（基礎）	申請年度	令和６年度

取組概要

学修目的（プログラムの目的）

Society5.0時代において、データ・AIを利活用するために必要な知識を理解するとともに、データを適切に読み解き伝えるための知識とスキルを身に付け、これらを業務に効果的に利活用することのできる能力をもった人材（世に役立つ人物）となることを目標とする。あわせて、より発展的な学習に挑戦する動機づけとして「AI・データサイエンス」を学ぶことの楽しさを理解する。

科目構成

必修科目	情報処理概論	① **データ・AI利活用に関する基礎知識** 世の中のどのようなところでデータ・AIが利活用されているか、また、データ・AIを扱うための留意事項などを学ぶ。 ※グループ学習や調べ学習などアクティブラーニング形式による学びを取り入れた講義科目による学習
	情報社会と倫理	
選択必修科目	データリテラシー	② 社会で活躍するために必要な**データリテラシー** データを適切に読み解き、加工し、伝えるための知識とスキルを学ぶ。 ※パソコン実習形式による学習
	社会調査法	

※対象科目は、副専攻科目としてすべての学部で1年次から履修可能

学修内容（身に付けられる能力）

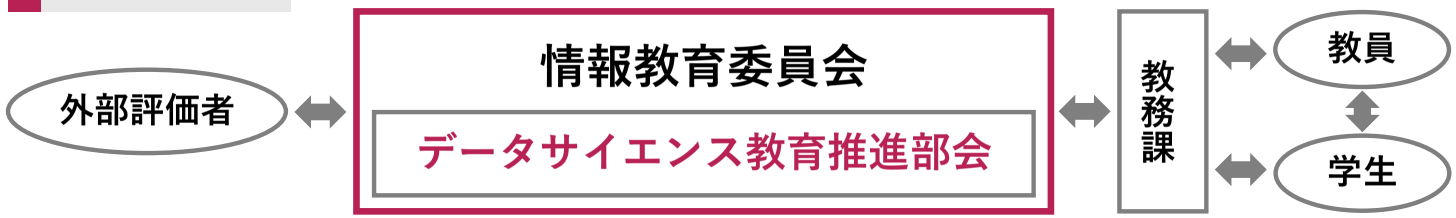
修了要件

必修科目2科目4単位と選択必修科目2科目4単位中1科目2単位、合計6単位の取得で本教育プログラムの修了を認定する。

プログラム修了証はオープンバッジで配付



実施体制



大阪商業大学
Osaka University of Commerce